

1996年度

# 免許課程シラバス

獨協大学

# 目 次

[ ] 内は1992年度以前入学者の科目名

## 教職課程（教職に関する科目）

教育原論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[教育原論]	鳥谷部 志乃恵	1
		川 村 肇	3
教職心理学Ⅰ（前期）		瀧 本 孝 雄	5
教職心理学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[教職のための心理学]	鈴 木 乙 史	7
		横 田 雅 弘	9
生涯教育論（司書科目「社会教育」と合併）	[生涯教育論]	渋谷 英 章	11
学校教育論	[学校教育論]	川 村 肇	13
教育法規	[教育法規]	渋谷 英 章	15
教育方法学	[教育方法の理論と応用]	町 田 喜 義	17
		林 潔	19
ドイツ語科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[ドイツ語科教育法]	山 中 康 子	21
英語科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[英語科教育法]	秋 山 武 夫	23
		清 水 由理子	25
		三 好 健	27
		J. J. DUGGAN	29
フランス語科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[フランス語科教育法]	井 上 たか子	31
社会科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[社会科教育法]	小 川 一 郎	33
地理・歴史科教育法	[地理・歴史科教育法]	古 川 堅 治	35
		犬 井 正	37
公民科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[公民科教育法]	小 川 一 郎	39
道徳教育の研究	[道徳教育の研究]	鳥谷部 志乃恵	41
		川 村 肇	43
特別活動	[特別活動]	川 村 肇	45
		佐 藤 利 明	47
		藤 井 光 男	49
生徒指導法	[生徒指導法]	川 村 肇	51
		佐 藤 利 明	53
		福 島 哲 夫	55
教育実習Ⅰ	[教育実習Ⅰ]	佐 藤 利 明	57
（教育実習の事前・事後指導）	（教育実習の事前・事後指導）	藤 井 光 男	59
		小 川 一 郎	61
教育思想史	[教育思想史]	鳥谷部 志乃恵	63
教職演習	[教職演習]	鳥谷部 志乃恵	65

## 教職課程（教科に関する科目）

日本史概説	〔日本史概説〕	新井孝重	67
外国史概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔東洋史概説〕	熊谷哲也	69
外国史概説Ⅲ（前期）・Ⅳ（後期）	〔西洋史概説〕	久慈栄志	71
地理学概説	〔地理学概説〕	山本充	73
地誌学概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔地誌学概説〕	山本充	75
地理学調査法	〔地理学調査法〕	犬井正	77
		山本正三	
心理学概論	〔心理学概論〕	林潔	79
社会学概論	〔社会学概論〕	有吉広介	81
哲学概説	〔哲学概説〕	河口伸	83
倫理学概論	〔倫理学概論〕	中島文夫	85
宗教学概論	〔宗教学概論〕	鈴木康治	87

## 司書・司書教諭課程

図書館通論	小田光宏	89
図書館資料論	根本彰	91
参考調査論	小田光宏	93
資料目録法	三井幸子	95
資料分類法	緑川信之	97
図書館活動論	柳与志夫	99
青少年の読書と資料	宮部頼子	101
図書及び図書館史	根本彰	103
図書館の施設と設備	宮部頼子	105
資料整理法特論	小田光宏	107
情報管理	小田光宏	109
社会教育（教職科目「生涯教育論」と合併）	渋谷英章	11
社会調査	小田光宏	111
人文科学及び社会科学の書誌解題（専門科目振替：「免許課程の手引」参照）		
自然科学と技術の書誌解題（専門科目振替：「免許課程の手引」参照）		
マスコミュニケーション（専門科目振替：「免許課程の手引」参照）		
視聴覚教育	町田喜義	113
学校図書館通論	宮部頼子	115
学校図書館の利用指導	宮部頼子	117

科目名	教育原論Ⅰ・Ⅱ（教育原論）	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	---------------	------	---------

講義の目標	<p>ドイツの教育学者のヘルバルトは、「毎日の忙しさや、さまざまな問題、事柄への対応に振り回される日常の諸経験が、そこにいる人間の視野をはなはだしくせばめてしまう教育の実践界ほど、普遍的な理念を踏まえた哲学的思慮が必要なところはない」と述べた。大学における教員養成の役割は、教師を志望する者に実践への基礎を培うことにある。ヘルバルトの指摘を念頭に置いて、哲学的思慮に基づいた教育実践の在り方を、教育目的—教育内容—教育方法にわたって考察を加えながら明らかにしていきたい。</p>		
講義概要	<p>前期教育原論（Ⅰ）は、教育の本質や目的についての理解を深めることを目標とする。①人間の生成、人間の生成と遺伝や素質の関係、人間の生成と環境との関係を考察し、教育の必然性と可能性について考える。②教育における目的の意義、社会が求める教育目的、法規や行政文書における教育目的などを考察し、教育における目的と実践の関係について考える。</p> <p>後期教育原論（Ⅱ）は、教育の本質や目的についての理解を前提として、教育内容や教育方法についての理解を深めることを目的とする。授業とは何かを考えるために、教育課程と教授学習理論について講義する。</p>		
使用教材	テキスト	『新制教育原理』 名倉英三郎編 八千代出版	
	参考文献	『人間はどこまで動物か』 A. ポルトマン著 岩波新書 『教育と人間の省察』 ランゲフェルド著 玉川大学出版 『狼に育てられた子』 シング著 福村出版 『教育の過程』 ブルーナー著 岩波書店 『学習指導論』 吉田昇著 学文社	
評価方法	定期試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

## 前期 (I)

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	I—(1) 人間の基本的な性質・被造物性について
2	(2) 子どもと親 (大人) について
3	(3) 人生のライフサイクルの中での人間形成について
4	(4) 遺伝 (素質) 説における教育について
5	(5) 環境 (経験) 説における教育について
6	(6) 遺伝と環境の相互的關係について
7	(7) 社会生活と人間形成について
8	II—(1) 教育の理想と理念について
9	(2) わが国の教育目的について
10	(3) 教育目的の諸要因 (社会・子ども・文化) について
11	(4) 学校における教育の目的、目標の設定について
12	(5) 目的意識に基づく実践としての教育行為について
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	I—(1) 教育内容の意味について
2	(2) 教育内容の選択について
3	(3) 教育内容の組織について
4	(4) わが国の教育課程
5	(5) 教育課程の展開
6	II—(1) 教育方法とは何かについて
7	(2) 学習指導の原理について
8	(3) 学習活動の形態と過程について
9	(4) 学習指導理論の歴史
10	(5) 学習集団の組織と運営について
11	(6) 学級観の変遷と教育方法の改革について
12	(7) 情報化社会と教育方法
備考	

科目名	教育原論Ⅰ・Ⅱ（教育原論）	担当者名	川村 肇
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>Ⅰにおいては、教育にあたって根元的に問われるであろう人間観を考察し、その上に立って、教育基本法を理解してゆく、また先ごろ批准された「子どもの権利条約」の水準に立った教育理解を深める。</p> <p>Ⅱにおいては、「子どもの権利条約」の上に立った教育改革の方向を一方に「新学力観」による教育、他方に独自の改革提言を、ともににらみながら、自分たちのものにしてゆきたい。その際、教育と社会とのかかわりを問い直すために、戦後の日本教育史についても考察する。</p>		
講義概要	<p>Ⅰにおいては、障害をもって生まれた子どもの具体的事例に基きながら、人間観、障害観を考察する。その上で、教育基本法と「子どもの権利条約」を、実践に移す上で必要となる理解を身につける。</p> <p>Ⅱにおいては、「子どもの権利条約」との対比で、現代学校現場に求められている「新学力観」に基いた教育を再検討する。その中から、「子どもの権利条約」に基いた教育を行なう諸条件を考えてゆく。</p>		
使用教材	テキスト	ポケット版『子どもの権利ノート』（子どもの権利条約をすすめる会）及び配布プリント類	
	参考文献	堀尾輝久著『日本の教育』（東大出版会） “ 『教育入門』（岩波新書） “ 『教育基本法はどこへ』（有斐閣新書） 汐見稔幸著『地球時代の子どもと教育』（ひとなる書房） ——『子どもの権利条約 実践ハンドブック』（労働旬報社） ——『意欲と学力』（新日本出版社） 増田孝雄著『政治と教育のあいだ』（新日本新書）	
評価方法	最終時のレポートによる（旧課程履習者も、前期レポートを執筆すること）		
受講者に対する要望など	最終時までには、参考文献を読了しておいて欲しい。なお、レポートは随時課することがあり、評価の参考にする（出欠は特にとらない）。		

## 前期 (I)

## 年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	開講の辞——本学で教員免許状を取得できる理由と意味を、戦後教育改革の中で考える。
2	人間観と教育 (1) ——障害をもって生まれた赤ちゃん
3	“ (2) ——障害をもって生きる辛さ
4	“ (3) ——障害をもって生きる強さ
5	“ (4) ——障害の意味と意義
6	“ (5) ——教育における人間観 (人はどうして尊いのか)
7	人間はどこまで動物か——人間の本質を考える。
8	日本国憲法と教育基本法、子どもの権利条約 (1) ——教育を受ける権利から、教育への権利へ。
9	“ (2) ——教育の義務と権利、子どもの参加
10	“ (3) ——教育の自由と教師の専門性
11	“ (4) ——教育の目的と、その国際的意義
12	レポート執筆
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	教育と差別 (1) ——ビデオ鑑賞
2	“ (2) ——討論
3	「新学力観」による教育とその実態 (1)
4	“ (2) ——「学力」とは何か
5	日本の教育政策と能力主義、学歴主義 (1)
6	“ (2)
7	子どもの権利条約を生かす教育 (1) ——竹内常一の高校改革提言
8	“ (2) ——生活と科学と教育
9	“ (3) ——佐藤学のハウス方式
10	“ (4) ——教育と学校をどのように変えてゆくのか (討議)
11	まとめ
12	レポート執筆
備考	

科目名	教職心理学Ⅰ（前）	担当者名	瀧本孝雄
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>教職に必要な心理学的な基本的問題について講義する。前半では主に教育心理学およびカウンセリングと心理テストについて、後半では主に青年心理学の領域について考察する。さらに、カウンセリングの各種のトレーニングを実施し人間理解、生徒理解を深める。</p>		
講義概要	<p>①教育心理学の対象と方法、②カウンセリングの目的と方法、③心理テストの理論と実施、④学習、知能について、⑤記憶、思考について、⑥教育の評価と測定、⑦教師の資質とリーダーシップ、⑧青年心理学の対象と方法、⑨青年期の意義と特徴、⑩現代青年の特徴、⑪現代青年の悩みなどについて講義する。</p>		
使用教材	テキスト	『カウンセリングと心理テスト』林潔他著 ブレーン出版	
	参考文献		
評価方法	<p>評価方法は、講義に関する試験およびレポートとする。出席は毎回とる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>[教職心理学Ⅰ]を前期に行う。[教職心理学Ⅱ]および「教職のための心理学」の授業は行なわない。</p>		



前期 (I)

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	教育心理学の対象と方法 教育心理学とは何か、教育心理学で扱う問題について講義する。
2	カウンセリングと生徒相談の目的 教育におけるカウンセリングと生徒相談の意義について考察する。
3	カウンセリングの方法 カウンセリングの方法について具体的に講義する。
4	クライアント中心のカウンセリング クライアント中心のカウンセリングの目的と方法について講義し、基本的な実習を行う。
5	心理テストの理論と実施 知能テスト、性格テストの理論と種類について講義し、性格テストを実際に実施して、自己理解をはかる。
6	学習、知能について 教育における学習、知能の意義とその役割について講義する。
7	記憶、思考について 教育における記憶、思考についてその意義と役割について講義する。
8	教育の評価と測定 教育評価の意義とその問題点を具体的事例をもとに講義する。
9	教師の資質とリーダーシップ 望ましい教師のあり方、教師の資質について検討する。
10	青年期の意義と特徴 人生サイクルの中での青年期の意義と特徴について講義する。
11	現代青年の特徴 現代青年が以前の青年と比べてどのような特徴があるかについて考察する。
12	現代青年の悩み 現代青年の悩みを構造的に理解する。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	教職心理学Ⅰ・Ⅱ（教職のための心理学）	担当者名	鈴木乙史
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>教職に就く者として、児童・生徒の理解は欠かすことができない。教職心理学では、児童・生徒の心理的な発達のプロセス、学習のメカニズム、知能の構造、教授者—学習者間の関係についての基本的知識と、個々の生徒に対する生徒指導について焦点をあてて、論じていく。</p>		
講義概要	<p>前期は、発達心理学、学習心理学、教育心理学の知見を紹介し、児童期・青年期の心理的特徴や発達課題について講義形式ですすめる。</p> <p>後期は児童・青年の臨床心理学的側面に焦点をあて、カウンセリング等の実習を含めながら、ゼミ形式ですすめていく。</p>		
使用教材	テキスト	林・瀧本・鈴木、「カウンセリングと心理テスト」 ブレーン出版	
	参考文献	その時々において紹介する。	
評価方法	前期は出席および筆記式テスト。後期は、出席およびその時々を与える課題の達成度。		
受講者に対する要望など	前期は特になし。後期は、「カウンセリング」等を用いた生徒指導法や登校拒否・いじめ等の問題に関心のある学生が望ましい。		

## 前期 (I)

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。第1回目の授業として、教職心理学Iでは、どのようなテーマを講義していくか、その概略を述べ、IIとの関連を説明する。
2	発達①：愛着と基本的信頼感の形成についてのべる。
3	発達②：野生児研究、マターナル・ディプリベーション研究から、人間的環境の重要性について論じる。
4	発達③：自己コントロールとしての自律性について述べ、実習として自己主張テストを実施し、結果を検討する。
5	発達④：自己意識と自我同一性について論じ、20 答法を実施し、結果を検討する。
6	学習①：無学習性行動と学習性行動のメカニズムを比較し、学習のメカニズムとプロセスについて考える。
7	学習②：条件づけやモデリングのプロセスについて理解を深め、あわせて内発的動機づけについても検討する。
8	知能①：知能と知能テストの違い、知能の構造について論ずる。
9	知能②：一般知能説、多因子説、新しい考えを比較し検討する。
10	知能③：ピアジェの発達論を論じ、量的側面だけではなく、質的変換の側面にも理解を深める。
11	教授—学習過程論について論ずる。特に、ATI 研究から、処遇の重要性についての理解を深める。
12	日米共同研究を基に、アメリカの学生と日本の学生の共通性と差異点について検討する。
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。教職心理学IIでは、どのようなテーマをどのような方法ですすめていくかを述べる。同時に受講生各自が満たすべき課題を与える。
2	精神障害の基礎①。児童期・青年期に好発する精神障害について。
3	精神障害の基礎②。神経症のタイプとメカニズムについて。
4	自己理解のために①。他者を理解するためには、自己の理解が必要である。性格テストを実施し、内容を相互に検討する。
5	自己理解のために②。課題①「日常会話の意識化」を提出させ、その内容について相互に検討する。
6	パーソナル・コミュニケーションの特質について論ずる。
7	カウンセリングの基礎①。紙上応答訓練法を説明し、小グループで応答を相互に検討する。
8	カウンセリングの基礎②。紙上応答訓練法を実施し、小グループで応答を相互に検討する。
9	カウンセリングの基礎③。課題②「ロール・プレイ」を提出させ、その内容について相互に検討する。
10	カウンセリングの基礎④。いくつかのロール・プレイを材料に応答内容を検討する。
11	生徒指導の方法。いくつかのケースについて、その問題をどう考え、どのように対処するかを相互に検討する。
12	まとめ。全体のまとめをおこない、課題③「この講義を通じて考えたこと」の発表をおこなう。
備考	

科目名	教職心理学Ⅰ・Ⅱ（教職のための心理学）	担当者名	横田 雅弘
-----	---------------------	------	-------

講義の目標	<p>① 前期に開講する教職心理学Ⅰでは、実際に教職についたときに役立つ実践的知識ならびに教職試験に必要な知識の概略を身につける。</p> <p>② 後期に開講する教職心理学Ⅱでは、自分を知るということを目標とする。すなわち、教職につく者としての自分のパーソナリティ、考え方、行動の傾向を理解し、その理解の上に、自分がどのような教育者になろうとするのかを考える。</p>		
講義概要	<p>教職心理学Ⅰは講義中心の授業である。しかし、教職についたときに必要な心理学の知識を、このような短期間の授業で網羅することは不可能である。そこで、ここでは主に人間関係にポイントを絞り、子供の社会性の発達、青年の心理の特徴、あるいは学校不適應の問題などを扱う。できるだけ実践的な知識をケースなどを使って講義する。</p> <p>教職心理学Ⅱでは、講義は最小限にとどめ、学生が自己分析にチャレンジする。特に初等・中等教育の教師は子供達と全人格的に交わるのであり、そのときに教師としての自分の強みや弱みを理解していることは大変重要である。授業は、ゲーム、心理テスト、ディスカッション等を中心に展開する。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを配布する。	
	参考文献	教職試験の準備のために、この授業でカバーしきれないところを整理しておく必要がある。たとえば、「教育に生かす心理学」伊藤康児他、北大路書房など。	
評価方法	<p>教職心理学Ⅰは、①授業への出席、②最後の授業時間を用いて行う試験を中心に評価する。</p> <p>教職心理学Ⅱは、①授業への出席、②複数の小レポートならびに最終レポートを評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>① 教職心理学Ⅱの受講者は、教職心理学Ⅰを履修していることが望ましい。</p> <p>② 教職心理学Ⅱは、自己分析という大きな課題にチャレンジする積極性が求められる。ディスカッションにも積極的に参加して頂きたい。</p> <p>③ 教職心理学Ⅰ・Ⅱともにきちんと出席すること。</p>		

## 前期 (I)

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (教職心理学 I・II について)。 発達と教育(1): 発達観と教育、知能の発達と創造性、認知的発達、道徳性の発達。
2	発達と教育(2): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
3	人間関係と社会性の発達(1): 親の養育態度と子供のパーソナリティ。
4	人間関係と社会性の発達(2): 学級集団とダイナミクス (友人関係、教師生徒関係、リーダーシップなど)。
5	学習指導と教育評価(1): 学習理論、学習指導法、動機づけ、教育評価。
6	学習指導と教育評価(2): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
7	青年期の身体成熟とセクシャリティ: 性的成熟の身体的・心理的側面、性と社会、学校における性とエイズ教育。
8	青年期の心理特性
9	学校不適応と精神衛生(1): 登校拒否、校内暴力、いじめなど。
10	学校不適応と精神衛生(2): カウンセリングの基礎知識。
11	補講
12	前期末テスト
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	自己紹介のセッション
2	自分に気づく(1): 自分の心理テストの結果を交流分析理論を通して解析する。そのための交流分析の基礎を学ぶ。
3	自分に気づく(2): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
4	自分に気づく(3): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
5	他人と状況に気づく(1): スモール・グループでの演習 (ただし受講者の人数によっては変更する場合有り)
6	他人と状況に気づく(2): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
7	ゲームを用いて、異文化状況における自分を理解する。
8	教師としての自分の強みと弱みを分析する(1)
9	教師としての自分の強みと弱みを分析する(2)
10	教師としての自分の強みと弱みを分析する(3)
11	補講
12	まとめ。レポート提出。
備考	

科目名	生涯教育論（社会教育）（後）	担当者名	渋谷英章
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>「生涯学習社会」は、現在ではあたりまえの言葉となっているが、ともすれば「学校を終えた人々に十分な学習機会が提供されれば生涯学習社会は完成する」という表面的で一面的な理解にとどまることが多い。この授業では、学校教育と社会教育をともに変革して両者の統合を図ることこそが、生涯学習社会の基本的な課題であるという視点から、生涯学習社会における学校教育と社会教育のあり方について追求する。</p>		
講義概要	<p>まず、現在「生涯学習社会」が求められる背景と生涯教育の理念を検討する。そのうえで、生涯学習社会における学校のあり方を現在の日本の教育改革の動向に基づいて考察し、次に生涯各期の社会教育の課題を明確にする。さらに、諸外国の事例との比較を通して、日本の生涯教育の現状と課題を分析する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真野宮雄編『生涯学習体系論』東京書籍</li> <li>・日本生涯教育学会編『生涯学習事典』東京書籍</li> <li>・倉内史郎・碓井正久編著『新社会教育』学文社</li> <li>・その他は授業中に指示する。</li> </ul>	
評価方法	<p>評価は、試験の成績をもとに出席状況を加味して行う。「何を学んだか」という知識の量よりも、「いかに学ぶか」という学び方が問われるべきである生涯教育の原則から、試験にはこの原則にふさわしい問題を課し、ノートや各種の文献などの持参を認める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業への出席が必要条件であるが、出席してもただ単に板書を写すだけでは不十分である。講義内容を十分に理解するように努め、さらにその内容について自分自身で考えることが重要である。</p>		

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	なぜ、いま「生涯学習社会」か
2	生涯教育の理念とその社会的背景 (1)——ラングランの生涯教育論
3	生涯教育の理念とその社会的背景 (2)——「脱学校論」の学校批判
4	生涯教育と学校 (1)——「新しい学力観」、「学校週5日制」と生涯教育
5	生涯教育と学校 (2)——学社連携、高等学校改革と生涯教育
6	生涯教育と学校 (3)——大学改革と生涯教育
7	生涯教育とライフ・サイクル (1)——幼児期、少年期の教育
8	生涯教育とライフ・サイクル (2)——青年期、成人期の教育
9	生涯教育とライフ・サイクル (3)——高齢期の教育、女性の生涯教育
10	諸外国の生涯教育 (1)——リカレント教育、有給教育休暇制度
11	諸外国の生涯教育 (2)——ノンフォーマル教育、識字教育
12	試験
備考	

科目名	学校教育論（後）	担当者名	川村 肇
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>学校とはどのような場であるのか。これを根本的に考え直すことが本講義の目的である。私たちは多くが学校教育の中で育ってきており、学校そのものを根本的に疑う機会は多くない。しかし他方、いじめや不登校など、現代学校に対して不応の子どもたちが着実に増加している。このような事態の原因の一つが、学校の中にあることは否定しえないと考える。こうした現実をふまえて、私たちの中にある学校観そのものをとらえ直したい。</p>	
講義概要	<p>東京シューレ等のフリースクールの紹介を通じて、フリースクールが現代学校につきつけている問題をえぐり出し、討議する。ディベート的な手法も取り入れたい。また、ビデオを見たり、実際に不登校児とかかわっている人たちを呼んで、共同討議も行ないたいと考えている。可能であれば、フリースクール訪問や、不登校児、あるいはその親へのインタビューを、各自行なう機会をもってもらい、経験を交流したい。</p>	
使用教材	テキスト	配布プリント類
	参考文献	<p>奥地圭子著『学校は必要か』（NHK ブックス）          里見実著『学校を非学校化する』（太郎次郎社）          雑誌『ひと』No.267（太郎次郎社）</p>
評価方法	最終的に執筆するレポート等による。	
受講者に対する要望など	<p>教育基本法、「子どもの権利条約」は、事前にきちんと読んでおくこと、レポートは随求め、評価に加える（出欠は特にとらないが、大学の外部から講義に協力してくれる人が加する場合には、必ず出席して欲しい）。</p>	



前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	自分たちの学校体験をふり返る—レポート執筆
2	東京シューレの実践紹介 (1) — 討議の中で、問題を取りだす。
3	“ (2) — とりだされた問題を、さらに討議して深める
4	フリースクール紹介—ビデオ鑑賞
5	現代学校とフリースクール—ディベート
6	日本の学校の歴史—現代学校は、どんな位置にあるのか
7	日本の学校の現状—ビデオ鑑賞。
8	生活と科学の結合の場として—「学力」、「能力主義」、「学歴主義」などを考える。
9	不登校児とかかわって—不登校児とかかわっている人たちとの交流および討議
10	学校をどのように改革してゆくか—ハウス方式と学校協議会
11	学校改革の方向をめぐって—討論
12	レポート執筆
備考	

科目名	教育法規（前）	担当者名	渋谷英章
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>教育法規の意義とその構造を理解し、教員としての職務の遂行にあたって、必要に応じて法的な裏付けとなる規定を自ら確認できるような知識と能力を身につけさせる。</p>		
講義概要	<p>はじめに、受講生がこれまでの学校生活で体験した事象がいかなる法的規定にもとづいていたのかを具体的に示し、教育法規を学ぶ意義を示す。その後で、憲法、教育基本法、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育公務員特例法などの法規定を検討することによって、教育法体系の構造と教育法の特殊性を具体的に検証していく。いかなる法規定が定められているかということよりも、なぜそのような法規定が存在するのかという問題に重点を置き、単なる条文の解釈にとどまらず、教育学の理論的背景を確認しつつ各法律の条文を考察していく。</p>		
使用教材	テキスト	教育制度研究会編『要説 教育制度（全訂版）』学術図書出版社	
	参考文献	『教育小六法』学陽書房	
評価方法	<p>評価は、試験の成績をもとに出席状況を加味して行う。試験では、条文を暗記しているかどうかではなく、法規定や条文の意味を正しく理解しているかを問うため、教科書、ノート教育六法を持参して、それらを参照しながら回答することになる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業への出席が必要条件であるが、出席してもただ単に板書を写すだけでは不十分である講義内容を十分に理解するように努め、さらにその内容について自分自身で考えることが必要である。</p>		

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	身近な教育事象の裏付けとして、どのように法的な規定が定められているのかを示し、教育法規を学ぶ意義について考える。
2	教育法の法体系およびその原則について考察する。
3	憲法の教育条項および教育基本法による規定について考察する。
4	教育基本法の規定とその規定の根源にある公教育原理について考察する。
5	学校教育法について考察する。
6	学校教育法について考察する。
7	地方教育行政の組織及び運営に関する法律について考察する。
8	地方教育行政の組織及び運営に関する法律について考察する。
9	教育公務員特例法について考察する。
10	社会教育法について考察する。
11	現在の教育問題と教育法について考察する。
12	試験
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	教育方法学（教育方法の理論と応用）（前）（後）	担当者名	町田喜義
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	各種メディアの驚異的な発達により我々を取りまくコミュニケーション状況は大きく変化している。それに伴い教育もまたいろいろな意味で激動期を迎えている。本講義は、「教育の方法と技術」をコミュニケーションの視点から再検討する事を目的とする。		
講義概要	人間の一生は、(1) 日常の様々な直接経験、(2) 本、TV、映画などによる間接経験、そして(3) 言語による理性的経験を通しての成長過程である。本講義では、先ずこの三つの経験システムをどの様に教育過程で生かすかを考えてみよう。第二に、「教育コミュニケーション」という概念を導入して、『教育の技術と方法』を通じて『教師の役割』を再検討してみよう。諸君の多くは近い将来、生徒を対象に先の過程の一端を担う事になる。生徒たちは諸君（先生）を通して多くの事柄を学んで行くだろうが、「どのように教えるか」は、「何を教えるか」と同様に重要な教育の課題である。これには「諸君が教師として何を学ぶ必要があるか」、「学んだ結果として諸君がどう変わるか」が関わっているからである。		
使用教材	テキスト	プリント、ビデオ、その他を使用する。	
	参考文献	秋山隆四郎・岩崎三郎編『改訂 視聴覚教育』樹村房 1991 大内茂男・高桑康雄・中野照海編『視聴覚教育の理論と研究』日本放送教育協会 1979 野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開 [第二版]』東信堂 1995 佐伯 胖『わかり方の根源』1990 小学館 吉田章宏『学ぶと考える—授業の現象学への道—』海鳴社 1987 稲垣忠彦・柴田義松・吉田章宏『教育の原理Ⅱ—教師の仕事—』東大出版 1985 多田俊文編『教育の方法と技術』学芸図書 1994 若林繁太『教師よ!』共同出版 昭和 59 年 林 竹二『学ぶということ』国土社 1978 その他（別紙配布する）	
評価方法	課題レポート (1) : 45% (提出遅れは認めない) (2) : 40% ( " ) 出席回数 : 15% (欠席 1 回につき 2 点減—やむを得ず欠席した場合は証明書を提出する事、遅刻は 1 点減)		
受講者に対する要望など	前・後期ともに学務課免許課程係が主催する「OHP 技術講習会」への参加を義務づける。 上記内容は受講生数・進捗などにより変更の可能性はある。		

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：講義概要説明と E. デールの理論『経験の円錐』、その他
2	授業とは？教えることとは？ビデオ：『若き教師たちへ』 課題レポート(1)：「林 竹二について」(400字詰原稿用紙・横書、4-5枚)
3	グループ内・間意見交換と発表：『若き教師たちへ』を観て
4	講義：「教育方法学のイメージ」ーコミュニケーションの観点から
5	講義：視聴覚コミュニケーション「メディアによる教育の変遷・課題」
6	講義：教育とコミュニケーション「教師、生徒、学習情報、メディア、テスト、学習効果、評価、フィードバック」
7	教育メディアの利用と実践ビデオ『超高層ビルはなぜ倒れないのか』 課題レポート(2)：「教師の役割」ーコミュニケーションの観点から(400字詰原稿用紙・横書、4-5枚)
8	グループ内・間意見交換と発表：『超高層ビルはなぜ倒れないのか』を観て
9	講義：授業過程における教育メディアの選択「特性・処遇・課題交互作用(TTTI)」
10	講義：教育における指導と改善「授業設計」 学習と指導の評価「評価と測定ーその1ー」
11	ビデオ：『計れる学力と計れない学力』 学習と指導の評価「評価と測定ーその2ー」
12	エピローグ：グループ内・間意見交換と発表：『テストについて』
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：講義概要説明と E. デールの理論『経験の円錐』、その他
2	授業とは？教えることとは？ビデオ：『若き教師たちへ』 課題レポート(1)：「林 竹二について」(400字詰原稿用紙・横書、4-5枚)
3	グループ内・間意見交換と発表：『若き教師たちへ』を観て
4	講義：「教育方法学のイメージ」ーコミュニケーションの観点から
5	講義：視聴覚コミュニケーション「メディアによる教育の変遷・課題」
6	講義：教育とコミュニケーション「教師、生徒、学習情報、メディア、テスト、学習効果、評価、フィードバック」
7	教育メディアの利用と実践ビデオ『超高層ビルはなぜ倒れないのか』 課題レポート(2)：「教師の役割」ーコミュニケーションの観点から(400字詰原稿用紙・横書、4-5枚)
8	グループ内・間意見交換と発表：『超高層ビルはなぜ倒れないのか』を観て
9	講義：授業過程における教育メディアの選択「特性・処遇・課題交互作用(TTTI)」
10	講義：教育における指導と改善「授業設計」 学習と指導の評価「評価と測定ーその1ー」
11	ビデオ：『計れる学力と計れない学力』 学習と指導の評価「評価と測定ーその2ー」
12	エピローグ：グループ内・間意見交換と発表：『テストについて』
備考	

科目名	教育方法学（教育方法の理論と応用）（前）（後）	担当者名	林 潔
-----	-------------------------	------	-----

講義の目標	<p>教育は「教える」ということよりも、学習者からその人の可能性を引き出すことだとよくいわれます。一般に行なわれている一斉授業の中でどうやって個々の生徒の可能性を引き出すことができるでしょうか。</p> <p>この授業では、学習者の学ぶ姿勢をいかに援助するかという視点で、コミュニケーションとしての教育方法について考えてみたいと思います。</p>	
講義概要	<p>まず、授業をコミュニケーションの一つのパターンとして考えてみます。次に学習者の条件として動機づけと学習技能（Study Skills）をとり上げます。授業は知識の伝達とあわせて、よい学習技能を形成して行くというねらいもあるはずです。そして、授業方法についての検討と調査をふくむ教育評価によって全体をまとめます。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	随時紹介します。
評価方法	平常点、レポート、期末試験	
受講者に対する要望など	「一斉授業の中で、どのようにして個々の生徒との接触をはかるか」ということを考えてみて下さい。	

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	「授業」について考える この授業全体のオリエンテーションとあわせ、印象に残った授業について考えてみます。
2	対人コミュニケーションとしての授業 コミュニケーションの諸問題とあわせ、意味論 (Semantics) について。
3	動機づけについて 外発的動機づけ、内発的動機づけ、達成動機、原因帰属論について。
4	学習技能 (Study Skills) (1) 以下合計3回にわたり、主要な学習技能についてとりあげます。今回はノートのとり方を中心とします。
5	学習技能 (2) 書き方を中心に。
6	学習技能 (3) 話し方と試験準備を中心に。
7	一斉授業の効用と限界 講義方式の授業の長所とその限界について考え、短所を補う方法について考えます。
8	集団アプローチ 授業に対する集団討議方式の導入について考えます。
9	授業計画について 授業計画の立案について。
10	教育調査とデータ処理 教育をテーマとした調査の方法とデータ処理の実際について。
11	メディアと授業 視聴覚教材の利用について。
12	教育評価 教育評価の方法について紹介します。
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	「授業」について考える この授業全体のオリエンテーションとあわせ、印象に残った授業について考えてみます。
2	対人コミュニケーションとしての授業 コミュニケーションの諸問題とあわせ、意味論 (Semantics) について。
3	動機づけについて 外発的動機づけ、内発的動機づけ、達成動機、原因帰属論について。
4	学習技能 (Study Skills) (1) 以下合計3回にわたり、主要な学習技能についてとりあげます。今回はノートのとり方を中心とします。
5	学習技能 (2) 書き方を中心に。
6	学習技能 (3) 話し方と試験準備を中心に。
7	一斉授業の効用と限界 講義方式の授業の長所とその限界について考え、短所を補う方法について考えます。
8	集団アプローチ 授業に対する集団討議方式の導入について考えます。
9	授業計画について 授業計画の立案について。
10	教育調査とデータ処理 教育をテーマとした調査の方法とデータ処理の実際について。
11	メディアと授業 視聴覚教材の利用について。
12	教育評価 教育評価の方法について紹介します。
備考	

科目名	ドイツ語科教育法Ⅰ・Ⅱ（ドイツ語科教育法）	担当者名	山中康子
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>○外国語教育の目的について</p> <p>英語の授業との比較、英語授業との関係</p> <p>外国語と日本語との関係</p>		
講義概要	<p>外国語を学ぶことと日本語との関係</p> <p>外国語によるコミュニケーションを目的とするが、日本では教室を出たら外国語を使うことはほとんどないので書かれた外国語をいかに速く正確に理解するかを考える。</p> <p>毎時間小テストを行う。</p> <p>初級の文法読本の1課毎に担当者を決め、実際に授業をやってみる。</p>		
使用教材	テキスト	W. A. MOZARTS : 第三書房 ¥2200	
	参考文献		
評価方法	前後期の定期試験および平常の小テスト、模擬授業の感想も参考にする。		
受講者に対する要望など			



前期 (I)

週	主 要 テ ー マ
1	ドイツ語をなぜ学ぶか、その目的について
2	英語などヨーロッパの言語の中のドイツ語の位置について
3	グループ分け (全体の人数による)、担当決定 担当部分の計画を立てあらかじめ指導を受けにくること
4	模擬授業、第一課、小テスト、感想文提出
5	第一課 小テスト、感想文提出
6	第二課 小テスト、感想文提出
7	第二課 小テスト、感想文提出
8	第三課 小テスト、感想文提出
9	第三課 小テスト、感想文提出
10	第四課 小テスト、感想文提出
11	第四課 小テスト、感想文提出
12	予備 小テスト、感想文提出
備考	

後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験返却、講評、前期の感想文の一部を紹介
2	第五課 小テスト、感想文提出
3	第五課 小テスト、感想文提出
4	第六課 小テスト、感想文提出
5	第六課 小テスト、感想文提出
6	第七課 小テスト、感想文提出
7	第七課 小テスト、感想文提出
8	第八課 小テスト、感想文提出
9	第八課 小テスト、感想文提出
10	第九課 小テスト、感想文提出
11	第九課 小テスト、感想文提出
12	予備 小テスト、感想文提出
備考	

科目名	英語科教育法 I・II (英語科教育法)	担当者名	秋山 武夫
-----	----------------------	------	-------

講義の目標	英語を教えるとはどういうことなのか、英語教師はどうあるべきか、理想の英語教育はどうあるべきかなどを、出来るだけ現場をふまえて考えていきたい。		
講義概要	<p>「英語科教育法 I」では、理論を主として概説し、評価の方法、教案の作り方等を行います。</p> <p>「英語科教育法 II」は、I を受講した人、またはしている人を対象として、実技、つまり実際に授業を行う時間です。教育実習、教員採用試験に役立つ講義にするつもりです。</p> <p>I、II 両方を受講することが望ましい講義です。</p>		
使用教材	テキスト	「英語教育学概論」(金星堂)	
	参考文献	その都度指定する。	
評価方法	この講座は「職業に関する科目」と言えますので、出席を重視します。2回欠席したら、評価 A は出しません。遅刻 2 回は欠席 1 回とみなします。		
受講者に対する要望など	現代の日本の英語教育界には、若い有能な教師が必要です。鋭意、実力を養い、実際に教員になって、新風を吹きこむ気概を持って受講してほしい。		

## 前期 (I)

## 年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	序論。英語教育のあるべき理想について語ります。
2	過去の日本において行なわれていた、さまざまな教育法、歴史を述べます。
3	パーマーの教育法について。
4	パーマーの教育法について。
5	フリースの教育法について。
6	フリースの教育法について。
7	フリース教育法について。
8	外人教師とのチーム授業について。
9	測定と評価。
10	教案の作り方 (中学)。
11	教案の作り方 (高校)。
12	Video による授業の研究。
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	序論。授業の進め方について。
2	Video による授業研究。
3	中学の授業実習 (中1、中2、中3)。
4	同上。
5	同上。
6	同上。
7	同上。
8	同上。
9	高校の授業実習 (高1、高2、高3)。
10	同上。
11	同上。
12	同上。
備考	

科目名	英語科教育法 I・II (英語科教育法)	担当者名	清水 由理子
-----	----------------------	------	--------

講義の目標	<p>これまでの言語教育における考え方を学び、これからの英語教育について考える。現在、日本の英語教育では、どのような問題を抱えているのか、それに対してどのような改善策があるか探っていく。日本での現状と同時に、海外での言語教育の動向を紹介していく。</p>		
講義概要	<p>前期 [I] は、講義を中心にし、基本的なことを紹介する。 後期 [II] は、ビデオによる授業研究や受講者の研究発表をもとに討論を中心に進める。内容については、講義予定表を参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	特に定めない。	
	参考文献	<p>塩澤利雄他著 (1993)『新英語教育の展開』 英潮社 伊藤健三他著 (1995)『英語の新しい学習指導』 リーベル出版 個々のテーマに関する参考書のリストは学期のはじめに配布する。</p>	
評価方法	<p>[I] (前期) レポート (教材研究) および期末試験による。 [II] (後期) 平常点、レポート (学外見学) および期末試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>後期の内容については、受講者の積極的な参加が望まれるので、それだけの心構えを持って受講してほしい。</p>		

## 前期 (I)

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	講義内容の説明、レポート課題 (教材研究) について 英語教師に望まれること
2	日本における英語教育—変遷と現状—
3	主要な教授法の特徴 (1) Oral Method, GDM
4	“ (2) Oral Approach
5	“ (3) Communicative Approach
6	“ (4) Others
7	Audio Visual Aids (1)
8	Audio Visual Aids (2)
9	Testing and Evaluation
10	Teaching Plan (1)
11	Teaching Plan (2)
12	まとめ
備考	レポートの提出期限は、前期の最後の授業時とする。

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	授業の進め方、レポート課題 (学外見学) について 「文法」の指導について
2	研究発表 (1) 「文法」の指導について
3	「聞くこと」と「話すこと」の指導について
4	研究発表 (2) 「聞くこと」と「話すこと」の指導について
5	「読むこと」の指導について
6	研究発表 (3) 「読むこと」の指導について
7	「書くこと」の指導について
8	研究発表 (4) 「書くこと」の指導について
9	研究発表 (5) 模擬実習
10	研究発表 (6) “
11	研究発表 (7) “
12	研究発表 (8) “
備考	レポートの提出期限は、1997年1月最後の授業時とする。

科目名	英語科教育法Ⅰ・Ⅱ（英語科教育法）	担当者名	三好 健
-----	-------------------	------	------

講義の目標	<p>一言でいえば、立派な英語教員となってもらうための授業である。立派な英語教員となるための必要最少限度の知識と心構えについて述べたい。とくに英語教育を、単なる技術教育としてでなく、人間教育の観点から考察することを強調し、教育者としての英語教員像を理解してもらうのが、最大の目標である。</p> <p>Ⅱ（後期）では英語教室の現場で役立つ実的な技術を身につけてもらう。</p>		
講義概要	<p>Ⅰ（前期）では、英語教育の意義から始めて、英語教育の歴史や各種の教授法を概観し、英語教育の目的を論じ、なお教室における学校文法の扱い方と指導案の書き方にも触れる。</p> <p>Ⅱ（後期）では、高校用英語読本を使って、受講生全員に教材研究を兼ねた授業の実演をやってもらう。</p> <p>総論的なⅠの延長としてⅡに進むので、一方のみの受講では、どうしても不十分と言わざるを得ない。受講者はぜひⅠとⅡを続けて受けてもらいたい。</p>		
使用教材	テキスト	Ⅱ（後期）で高校用英語読本を使う。	
	参考文献	随時授業中に説明する。	
評価方法	Ⅰ（前期）は出席状況とレポートと定期試験により、Ⅱ（後期）は授業の演習とレポートと定期試験により評価する。		
受講者に対する要望など	真剣に英語教員になる意志をもった諸君に受講してもらいたい。遅刻・欠席を趣味とする学生はお引きとり願うことはもちろんである。なお受講希望者は、第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。		

前期 (I)

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション——今後の講義予定を説明し、英語教育の意味を考えてもらう。受講希望者に名前を届けてもらって名簿を作製する。
2	[外国における語学教育の歴史と各種教授法] その1——中世 (Grammar-Translation Method) からルネサンス。
3	[同上] その2——ルネサンスから19世紀。
4	[同上] その3——19世紀以後の各種教授法。
5	[日本の英語教育の歴史] その1——幕末時代 (蘭学から英学へ)。
6	[同上] その2——明治時代。
7	[同上] その3——大正から昭和へ。
8	[同上] その4——戦後の昭和から現代へ。
9	[英語教育の目的] その1——外国語を学ぶ意義 (実用目的と教養目的)。
10	[同上] その2——英語学習の意義 (英語の重要性は国際性にあるのか?)。
11	[学校文法の扱い方と教育指導案の書き方] ——実地における学校文法の役割を説明し、指導案の実例を示して書き方を教える。
12	
備考	

後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション——今後の授業の進め方を説明し、学生による授業演習の意義と目標を述べると共に、演習のしかたを具体的に例示する。
2	[学生による授業演習とその講評] ——学生一人ひとりに演習をやると同時に指導案を提出してもらう。
3	[同上 (その2)] ——同上。
4	[同上 (その3)] ——同上。
5	[同上 (その4)] ——同上。
6	[同上 (その5)] ——同上。
7	[同上 (その6)] ——同上。
8	[同上 (その7)] ——同上。
9	[同上 (その8)] ——同上。
10	[同上 (その9)] ——同上。
11	[演習のまとめ] ——授業演習の総評。
12	[講義のまとめ] ——英語教員の理想像を考察する。
備考	

科目名	英語科教育法 I・II (英語科教育法)	担当者名	J. J. ダゲン
-----	----------------------	------	-----------

講義の目標	<p>The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction.</p>		
講義概要	<p>In this course, we shall spend most of first term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based. The second term will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first term, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p>		
使用教材	テキスト	<p>Hubbard, P. et. al. <i>A Training Course for TEFL</i>. Oxford University Press. Underwood, M. <i>Effective Class Management</i>. Longman.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>Grades will be assessed based on in-class participation (and therefore attendance), assignments, presentations and a final paper.</p>		
受講者に対する要望など			



## 前期 (I)

## 年間講義予定

週	主 要 テ - マ
1	Course description and explanation. Assignment.
2	Theme : <i>The role of the teacher</i> . Discussion. Longman text pp.7~18
3	Theme : <i>The influence of the teaching situation</i> . Lecture. Discussion. Longman text pp.19~24.
4	Theme : <i>The aspect of the classroom</i> . Lecture. Discussion. Longman text pp.25~57.
5	Theme : <i>The relationship of teacher, classroom and situation</i> . Lecture. Discussion. Assignment.
6	Theme : <i>Considering "Why?"—Approach</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.30~38.
7	Theme : <i>Considering "How?"—Traditional Methods</i> . Lecture. Discussion. Handouts.
8	Theme : <i>Considering "How?"—New Methods</i> . Lecture. Discussion. Handouts. Oxford text pp.241~253.
9	Theme : <i>Considering "What?"—Technique</i> . Lecture. Discussion.
10	Theme : <i>Planning a Syllabus</i> . Lecture. Discussion. Handouts. Longman text pp.58~79.
11	Theme : <i>Planning a Syllabus</i> . Lecture. Discussion. Assignment.
12	First term summary & review. Assessment.
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ - マ
1	Second term course description and set-up. Review of first term material.
2	Theme : <i>Traditional Teaching Techniques</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.3~30.
3	Theme : <i>Teaching Reading &amp; Vocabulary</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.41~61.
4	Theme : <i>Teaching Reading &amp; Vocabulary, part 2</i> . Presentations. Discussion.
5	Theme : <i>Teaching Writing &amp; Composition</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.61~79.
6	Theme : <i>Teaching Writing &amp; Composition, part 2</i> . Presentations. Discussion.
7	Theme : <i>Teaching Listening</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.79~95.
8	Theme : <i>Teaching Listening, part 2</i> . Presentations. Discussion.
9	Theme : <i>Teaching Oral Communication</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.198~205.
10	Theme : <i>Teaching Oral Communication, part 2</i> . Presentations. Discussion.
11	Theme : <i>Teaching Oral Communication &amp; Pronunciation</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.207~239.
12	Second term summary & review.
備考	

科目名	フランス語科教育法Ⅰ・Ⅱ (フランス語科教育法)	担当者名	井上 たか子
-----	-----------------------------	------	--------

講義の目標	<p>フランス語教授法の理論を学ぶ。また、模擬授業を通して、中学・高校でのフランス語教育に携わるために必要なレベルのフランス語能力を身につける。</p> <p>教師になるためには、いい加減なフランス語学習の態度では困ります。積極的に授業に参加して欲しいと思います。受身ではない、自分なりの考えをもてるように心がけて下さい。</p>	
講義概要	<p>Simulation globale という授業法を紹介し、それとの関連でさまざまな教授法を点検する。また、フランス語学習の意義や目的について考え、それにふさわしい教材とはどのようなものか批判的に分析する。</p> <p>前期は特に“話す”能力、後期は“読む”能力に重点をおきます。</p>	
使用教材	テキスト	特になし。適宜プリントを配布します。
	参考文献	中村啓佑・長谷川富子『フランス語をどのように教えるか』、駿河台出版社。 その他テーマ別のものは、その都度指示します。
評価方法	授業への参加度を重視します。他に前・後期各一回のレポート。	
受講者に対する要望など	<p>欠席・遅刻をしないこと。</p> <p>真面目に努力すること。</p>	

前期 (I)

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	履習登録終了の時点で、くわしいシラバスを配ります。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会科教育法 I・II (社会科教育法)	担当者名	小川一郎
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>社会科は、現在、小学校3年から中学校2年まで実施されている。ここで取り扱うのは、中学校対象の社会科教育法である。</p> <p>社会科を、その特質から理解し、社会科に要請されている現代的課題を把握するようにし、社会科の目標、内容に対応した教育方法が工夫できるようにし、社会科の実践的指導力を身に付ける。</p>		
講義概要	<p>戦後の出発当初の初期社会科の特質を先ず認識させる。また、その後の社会科の変容を、学習指導要領の変遷を追いながら理解させる。</p> <p>さらに、現代の社会科は、新しい学力観によって、生徒の関心、意欲、態度が重視されるので、指導方法が創意、工夫されなければならない。地理的内容、歴史的内容、公民的内容に対応した教育方法が行なえるように講座を進めたい。</p> <p>特に、後期は、ディベート、模擬授業などを行うなどして、授業の実践的指導力を身につけさせるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部省『中学校指導書、社会科編』大阪書籍</li> <li>・小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院</li> </ul>	
	参考文献		
評価方法	単に、知識、理解をする講座ではないので、出席を重視する。		
受講者に対する要望など	実践的指導力を身につけ、充実した実習を行なえるように、社会科教育法IIも受講することを期待する。		

前期 (I)

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	社会科教育法Ⅰの講座の概要説明と戦前の修身、地理、日本歴史の授業内容、方法、性格について説明し、新しい社会科の前史を理解させる。
2	戦後当初の新しい科目設定構想、アメリカ教育使節団による社会科の提案などについて、また、社会科出発時の理念や経過について
3	出発時の社会科の内容（初期社会科）について
4	問題解決学習の理論と方法について
5	初期社会科への批判が学力低下に向けられたり、道徳教育充実と関連させて、社会科に対する批判や要望が出て、論議が行われたので、その事情や内容について
6	社会科の学習指導要領の変遷を追い、改訂ごとの趣旨や要点その背景などについて
7	最も新しい平成元年度の学習指導要領（社会科）の改訂について、また、その趣旨、改訂の要点、その背景などについて
8	社会科の目標、地理的分野、歴史的分野の改訂の要点、各目標、内容の概略について
9	公民的分野の改訂の要点、目標、内容について、また、教科全体の内容構成の特質について
10	各分野の指導計画の作成と内容の取り扱い方の特色について
11	社会科の各内容に即した指導法があることを示し、その概略について
12	現代の民主主義の課題の2, 3と、その取り扱いについて
備考	

後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	社会科教育法Ⅱは、社会科教育法Ⅰの実践編というべきもので、社会科指導の実践的指導力を育成する講座である。その概要について
2	指導方法と特に関連の深い新しい学力観について
3	思考力、判断力、表現力、態度を育成する社会科の代表的な指導法について
4	学習指導案の作成について（教科書を参考に、実際に指導案を作成する）
5	作成した指導案について、学生の個々に発表させ、注意すべき点を指摘し、よりよい指導案を作成する
6	実際に作成した指導案に基づいて模擬授業を行う。自己評価、意見交換、その講評
7	同上
8	同上
9	指導方法の一つとしてディベートを取り上げ、そのねらいや方法など説明し、実際にディベートを行うテーマを決め、次回に行うディベートの準備をする。
10	一つのテーマについて、実際にディベートを行う。行ったディベートについて、意見や感想を交換し、講評する。
11	同上
12	社会科教育法について、これまでの授業の総括、また、社会科の現代的課題について
備考	

科目名	地理・歴史科教育法（歴史）（前）	担当者名	古川 堅 治
-----	------------------	------	--------

講義の目標	<p>「歴史」を教えるということは、常に教える側の歴史観を問われることでもある。その意味で「歴史」を教える事の「コトの重大さ」を認識する必要がある。そのようなことを前提に現代の歴史学の成果との関連、歴史教育の変遷、その具体的な方法などをとりあげながら歴史を教える基本的なスタンスを確立することが本講座のねらいである。</p>		
講義概要	<p>講義では時々プリントを配布しながら概説的に説明していくが、積極的な討論がわきあがることを期待したい。また、ビデオの上映によって、今、問題になっている教科書論争についても考えていきたい。授業はアト・ホームな雰囲気で行うことに心がけたい。なお、後半2～3回は「模擬授業」の時間にあて、各回とも2人ずつ（1人30～40分間）、それぞれ日本史、世界史どちらの分野でも自分の好きなテーマを選んで「授業」を行なってもらう。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用はしない。	
	参考文献	その都度参考文献を提示する。	
評価方法	<p>レポートでもって評価する。テーマ、ノ切日、枚数等は授業中に提示する。なお、「模擬授業」を希望する人はそれをもってレポートに替える。</p>		
受講者に対する要望など	<p>主体的・積極的に授業に臨むことを期待する。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	「歴史教育と歴史学」 なぜ歴史を学ぶのか。歴史研究と歴史教育の関係のあり方等について考察する。
2	「歴史教育の方法Ⅰ、材料提示」 ビデオ学習や史・資料操作の有効性と問題点について考える。
3	「歴史教育の方法Ⅱ、テーマ設定」 人物学習や地域学習をとりあげる方法について考える。
4	「歴史のこわさと面白さ」 歴史がある政治・社会運動に使われたりする側面と謎ときのような面白さをもっていることについて。
5	「歴史教育におけるアジア史」 日本を含む東アジアの歴史の共通認識という課題はいかにしてなされるべきかについて考える。
6	「歴史教科書の問題」 ビデオを通して日本と近隣諸国の歴史教科書論争について学び、その問題点について考える。
7	「歴史研究と歴史教育のはざま」 歴史研究と歴史教育はどのような関係にあるべきか、「ドーリア人問題」を例に考える。
8	「世界史教育上の新しい視点」 世界史上のある時期、時代をとりあげ、新しい視点でどのようにとらえ直すことができるかを考える。
9	「日本史教育上の新しい視点」 日本史上のある時期、時代をとりあげ、新しい視点でどのようにとらえ直すことができるかを考える。
10	「模擬授業」(Ⅰ)
11	「模擬授業」(Ⅱ)
12	「模擬授業」(Ⅲ)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	地理・歴史科教育法（地理）（後）	担当者名	犬井 正
-----	------------------	------	------

講義の目標	高等学校における地理歴史科の地理に関する教科教育法の講義である。地理教育史、地理教育の方法、地理教育の実際、地理教育の課題を考察する。		
講義概要	講義はVTR、討論形式、スライドなどを援用しながら進めていく。年間予定計画に示したように、毎回適宜なトピックスを提示しながら、高校における地理教育の実際、展望等を行う。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	参考文献リストを第二週以降に配布する。	
評価方法	授業への貢献度とレポート等の結果を総合的に判断する。		
受講者に対する要望など	特になし。		



前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等のオリエンテーションを行う。
2	第二次世界大戦後の地理教育のあゆみ。アメリカの社会科教育の影響、および日本の小・中・高等学校の地理教育の関連を中心とする。
3	社会科教育における地理教育と、新しい地・歴科における地理教育の相違について。文部省高等学校学習指導要領を中心として考察する。
4	学習指導要領と教科書（地図帳を含む）の持つ意味について。「教科書で教えるのか、教科書を教えるのかの論争」を考察する。
5	地理教育の実際（1） 地図（読図・描図）教育の基礎的方法について。
6	地理教育の実際（2） 自然地理学習の意義を理科教育、特に地学教育との関連と相違を通して考察する。
7	地理教育の実際（3） 野外観察、野外調査、地域調査の計画と指導法について。
8	地理教育の実際（4） 地理的情報の活用と効果的な地名学習の方法について。
9	地理教育の実際（5） 系統地理学習と地誌学習の相違および学習効果について。
10	地理教育の実際（6） 異文化理解と国際理解の方法。時事問題の取り扱い方に関連させながら講述する。
11	地理教育の実際（7） 年間指導計画と評価について。
12	講義のまとめにかえて、現在日本の地理教育が直面している課題について講述する。
備考	

科目名	公民科教育法 I・II (公民科教育法)	担当者名	小川一郎
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>新学習指導要領（平成元年）によって、高等学校の社会科は再構成され、地理、歴史科と公民科とになり、平成6年から実施されている。</p> <p>公民科では、国際化、情報化の進展に主体的に対応できる公民としての資質をもつ人間の育成を目指す、十分それを達成できる公民科教育法を身につけさせる。</p>		
講義概要	<p>戦前の公民教育が極端な国家主義や軍国主義に基づいたものであったことを認識させ、その反省の上に立って公民教育が出発したことを理解させる。</p> <p>公民科は、「公民としての資質の育成」を目指しているが、それを達成するための内容、方法について理解させる。</p> <p>後期の公民科教育法IIでは、目標、内容に対応した指導方法を研究し、実際に模擬授業などを行い、実践的指導力を身に付けさせる。また、表現力や判断力を身に付けさせるため、ディベートの授業など新しい指導方法を開発する意欲と実践力を培う。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部省『高等学校学習指導要領解説、公民編』実教出版</li> <li>・小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院</li> </ul>	
	参考文献		
評価方法	単に、知識、理解をする講座ではないので、出席を重視する。		
受講者に対する要望など	実践的指導力を身につけ、充実した実習を行えるように、公民科教育法IIも受講することを期待する。		

前期 (I)

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	年間の公民科教育法の概要について 特に、前期の公民科教育法Ⅰの講座の概要について 現代における公民科教育の役割について
2	公民教育刷新委員会の答申や新教育指針から引き出される公民教育の構想について
3	公民科教育の意義や目的を正しく理解するための「公民」の概念や「公民としての資質」について
4	公民科教育の、代表的な指導法や新しい学力観について
5	平成元年の学習指導要領の社会科の再編成による公民科の誕生について。その理由、社会的背景について。また、社会科の倫理や政経の分野の歴史的変遷について。
6	公民科の教育目標、内容構造について
7	公民科の科目「現代社会」の目標と内容構成について
8	公民科の科目「倫理」の目標と内容構成について
9	公民科の科目「政治、経済」の目標と内容構成について
10	「人間としての在り方生き方に関する教育」と公民科の各科目における実践について
11	世界の主な国における公民教育について。 日本の公民教育と対比
12	公民教育が現代において当面するいくつかの課題について
備考	

後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	公民科教育法Ⅱは、公民科教育法Ⅰの実践編であること。後期の講座の概要について
2	新しい学力観における関心・意欲・態度の育成や表現力、判断力の伸長と公民科教育の関連について
3	公民科の授業づくりと「教育内容」、「教材」と「授業過程」について
4	公民科の教科書を参考に指導案の作成
5	作成した指導案について意見交換、講評
6	模擬授業の実施、自己批判、意見交換、講評
7	同上
8	同上
9	論理的な思考力や表現力を育成する授業方法としてのディベートについて
10	ディベートの実施、感想、意見交換、講評
11	同上
12	公民科教育法についてこれまでの講座の総括。 特に、公民科教育法の課題について
備考	

科目名	道徳教育の研究（前）（後）	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	---------------	------	---------

講義の目標	<p>今日の道徳教育への強い要請は、①子どものいじめや登校拒否等を中心とする社会病理的問題、②社会の脱工業化、情報化、高齢化等にもなう問題への対応策として主張されることが多い。しかし教育の本来的目的は「人格」形成にある。子どもの中に自律的で実践的な道徳性を形成することを目標とする道徳教育は、教育の究極の目的でもあり、単なる対応策の手段ではない。価値が多様化し、激変する社会の中での道徳教育は如何に可能かが問われなければならない。本講義では、人間は何故に道徳を問題にし、又道徳性が不可欠であるかを考察する。</p>		
講義概要	<p>本講義は、(1) 道徳とは何か、(2) わが国の道徳教育の変遷、(3) 学校における道徳教育の構造等について考察し、学校における道徳教育の役割と方法を明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	『これからの道徳教育を求めて』山崎英則 編著 学術図書出版	
	参考文献	『徳の現象学』O. F. ボルノー著 白水社 『教育を支えるもの』O. F. ボルノー著 黎明書房 『道徳性の発達と教育』コールバーク著 新曜社	
評価方法	定期試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	道徳とは何か
2	道徳教育の目的
3	道徳教育の倫理的な基礎
4	道徳教育の心理学的な基礎
5	明治期の道徳教育と教科書政策について
6	大正・昭和（終戦まで）の道徳教育
7	戦後の占領政策と道徳教育
8	全面主義道徳と「道徳の時間」の特設について
9	各教科と道徳教育の関係について
10	特別活動と道徳教育の関係について
11	「道徳の時間」における道徳教育について
12	道徳教育と教師
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	道徳とは何か
2	道徳教育の目的
3	道徳教育の倫理的な基礎
4	道徳教育の心理学的な基礎
5	明治期の道徳教育と教科書政策について
6	大正・昭和（終戦まで）の道徳教育
7	戦後の占領政策と道徳教育
8	全面主義道徳と「道徳の時間」の特設について
9	各教科と道徳教育の関係について
10	特別活動と道徳教育の関係について
11	「道徳の時間」における道徳教育について
12	道徳教育と教師
備考	

科目名	道徳教育の研究（前）	担当者名	川村 肇
-----	------------	------	------

講義の目標	人間の内面の問題である道徳の問題を、どのようにして学校で扱うのか、また、子どもの道徳性の発達の理論は、私たちに何を提起しているのかを学ぶ。		
講義概要	戦後教育改革の下で「修身」が禁止された意味を問い直す。その上で、特設された「道徳」が何をめざすものとして考えられたかを明らかにする。次に、教育の本質と、子どもの発達の理論をもとにして、道徳教育は、いかなる意味で学校教育で可能なのか、知育との関連性をどのように考えるのか、といった問題を、参加者と共に考えてゆきたい。		
使用教材	テキスト	配布プリント類	
	参考文献	M. トベス著『教育の段階』（堀尾他訳、岩波書店） J. ルソー著『エミール』（岩波文庫他） 尾花清著『道徳教育論』（大月書店） 堀尾輝久著『人間形成と教育』（岩波書店）	
評価方法	最終時に執筆するレポートによる。		
受講者に対する要望など	最終時までには、参考文献を通読して欲しい。		

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	開講の辞。私たちの受けてきた「道徳」教育
2	「道徳」教育の歴史 (1) — 戦前の「修身」
3	” (2) — 戦後教育改革と、そのめざしたもの
4	” (3) — どうして「道徳」は特設されたのか
5	道徳性とその発達 (1) — 「正しい」ことと、その歴史的・社会的性格
6	” (2) — どのように道徳性は発達してゆくか。
7	教育の本質と学校における「道徳」(1) — 「道徳」は学校で教えられるか
8	” (2) — 「人格の完成」と知育との関係について
9	” (3) — 主体形成の核としての「道徳」とは何か
10	” (4) — どういう形で子どもの道徳性の発達を援助してゆくか
11	まとめ
12	レポート執筆
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	特別活動（前）（後）	担当者名	川村 肇
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>特別活動とは、教育学の用語では「教科外活動」という。現在学校5日制の下で、大きなシワ寄せが教科外活動にきているが、他方で、「日の丸」「君が代」を学校儀式に強制し、ボランティア活動などを内申書で評価するといった形の「重視」もされている。本講義では、「新学力観」と、それを生みだしてきた日本の教育の歴史を理解し、本来求められる教科外活動と、そのあり方を探ることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>「新学力観」に基く教育の実態を共通の理解にした上で、戦前・戦後の教育政策と、教師たちの教育実践の歴史を学ぶ。その上に立って、子どもたちの学校への参加と自治の方向に学校を転換させつつ、教科外活動の意義と意味を明らかにしたい。また、「日の丸」「君が代」の強制と教育の本質についても考えてゆく機会をもちたい。時間等の条件が許せば、各自実際に教科外活動のひとつであるボランティア活動に従事してもらい、その経験を交流したい。</p>		
使用教材	テキスト	配布プリント類	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>— 『教職課程講座 6 特別活動』（ぎょうせい）</li> <li>折出他著『教科外活動を創る』（労働旬報社）</li> <li>— 『ゼミナール 生活指導を変える』（青木書店）</li> <li>浅野誠著『大学の授業を変える 16章』（大月書店）</li> <li>大田堯編『戦後日本教育史』（岩波書店）</li> <li>— 『意欲と学力』（新日本出版社）</li> </ul>	
評価方法	最終時に執筆するレポートによる。		
受講者に対する要望など	ボランティア活動に参加した場合、別にレポートを求め、評価に加える（出欠は特にとらない）。		



## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	「新学力観」下の教育現場
2	日本の教育政策と教育実践の歴史 (1) ——近代化と教育勅語
3	“ (2) ——大正「新教育」と戦時教育
4	“ (3) ——戦後教育改革とコアカリキュラム
5	“ (4) ——「逆コース」と「新学力観」
6	「日の丸」「君が代」の強制と教育の本質について (1) ——討議
7	“ (2) ——まとめ
8	子どもの参加と自治——教育を貫く視点
9	ボランティア活動の実際 (1)
10	“ (2)
11	“ (3)
12	レポート執筆
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	「新学力観」下の教育現場
2	日本の教育政策と教育実践の歴史 (1) ——近代化と教育勅語
3	“ (2) ——大正「新教育」と戦時教育
4	“ (3) ——戦後教育改革とコアカリキュラム
5	“ (4) ——「逆コース」と「新学力観」
6	「日の丸」「君が代」の強制と教育の本質について (1) ——討議
7	“ (2) ——まとめ
8	子どもの参加と自治——教育を貫く視点
9	ボランティア活動の実際 (1)
10	“ (2)
11	“ (3)
12	レポート執筆
備考	

科目名	特別活動（前）	担当者名	佐藤利明
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>学習指導要領第1章総則第1教育課程の一般方針及び特別活動目標の基礎理念と各分野の具体的実践活動について理解する。さらに特別活動が学校教育における活力の重要な領域であることを講義する。</p>		
講義概要	<p>学習指導要領の特色（中教審・臨教審・教課審答申を含む）。          教育課程一般方針。          特別活動の変遷及び特別活動の特質と目標。学校教育目標の具現化と特別活動。          学級（H. R）活動の人間関係と指導計画の実際。          生徒会活動の意義と指導計画の実際。          クラブ活動の意義と組織運営及び課外活動との関連、問題点。          学校行事の意義と指導計画、各行事の実際。          特別活動の評価。          特別活動と教育相談。</p>		
使用教材	テキスト	<p>要説特別活動の研究 酒井書店          プリント配布</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>レポート評定と定刻出席          レポート提出 教務課あて、平成8年7月23日（火）〆切          レポート課題等 最終時出題。</p>		
受講者に対する要望など	<p>止むを得ず欠席の場合は、事前に欠席届と、作文（課題はその都度提示）を提出する。事後の場合は、すみやかに同様提出する。</p>		

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	(1) 期中の講義内容の概要説明 (2) 学習指導要領とは (3) 学習指導要領第1章総則第1教育課程編成の一般方針1について (4) 中学校・高等学校等教育の一貫性について。
2	これからの学校教育と特別活動の意義・理念について。
3	(1) 特別活動の変遷、(2) 特別活動の特質と目標内容。
4	指導計画、指導案の作成。
5	学級（ホーム・ルーム）活動の指導。
6	生徒会活動の指導。
7	クラブ活動の指導。
8	学校行事の指導。
9	特別活動の評価。
10	特別活動と学級・学年・学校経営。
11	学校週5日制時代における家庭・地域との関わり。
12	(1) これからの特別活動の展望と課題 (2) レポート課題提示。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	特別活動（前）	担当者名	藤井光男
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>学習指導要領に示された、中学校・高等学校における特別活動の目標を通して、特別活動の特質と内容を十分に理解するとともに、その指導原理や方法について、理論的、実践的に学び、学校教育の中で果す特別活動の果す役割と課題について解明する。</p> <p>「為すことによって学ぶ」この教育活動を実習への伏線としての役割をも配慮して学ぶ。</p>		
講義概要	<p>特別活動の今日的意義と目標をしっかりと把握することにより、教育活動のもつ琴線ふれ、現代社会と特別活動のかかえる課題と、今後5日制に突入する学校教育の現状と課題をも考え合せ、人間としての生き方、在り方の探究を考察する。</p> <p>とりわけ今日的課題を「いじめ」についてのかゝわり、特別活動と生活指導、教育相談、地域社会、ボランティア活動や福祉教育等も実践例として取りあげ特別活動の果す役割を身につける講義としたい。</p>		
使用教材	テキスト	「現代の生徒指導」文教書院発行	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校指導要領（中学校、高等学校）</li> <li>・文部省刊行物</li> </ul>	
評価方法	<p>各1回のレポートの評価と定刻出席をもって評価する。但し止むをえず欠席の場合は、事前に欠席の理由を連絡すると共に、担当者より課題の提示をうけ、事後担当者に提出する事</p> <p>レポート提出日、前期 7月24日(月) 教務課</p>		
受講者に対する要望など	<p>教員となる確な心構えをもち、必ずその目標を遂行する決意をもって受講されることを望む。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	特別活動の今日的意義と目標について
2	教育活動の変遷について
3	特別活動の特質と内容について
4	指導計画の作成と活動の評価
5	学級活動・ホームルーム活動の指導について
6	生徒会活動の指導について
7	クラブ活動・部活動について
8	学校行事の指導について
9	特別活動と学校経営について
10	特別活動と地域社会について
11	特別活動における今日的課題について
12	まとめ レポート課題の提示
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	生徒指導法（前）（後）	担当者名	川村 肇
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>生徒指導の具体的方策ではなく、その根本的な問題を考える。少なくない学校で、生徒指導の名の下、スクールポリス化した教師たちが体罰を日常化させ、管理を強めている。他方でそれは、いじめや不登校の温床となっている。いわゆる手先の問題では解決しないこのような事態を、マクロな視点から考えることを通じて、「生徒指導」から「生活指導」への転換を生み出す基本的な道筋を理解する。</p>		
講義概要	<p>前半は、問題行動とは何かを考察し、戦後日本における問題行動の歴史をレクチャーする。後半は、いじめと体罰の問題を、ビデオ等を通じて考えながら、子どもたちに対する「指導」とは何かを探ってゆきたい。時間的に可能であれば、校則の問題も考えたい。</p>		
使用教材	テキスト	配布プリント類。	
	参考文献	<p>渡辺真他著『生徒指導の理論と実践』（樹村房）  竹内常一著『子どもの自分くずしと自分づくり』（東大出版会）  ——『いじめ・子ども世界 何が問題か』（青木書店）  坂本秀夫著『体罰の研究』（三一書房）  ——『いじめと体罰』（太郎次郎社）  雑誌『生活指導』（月刊、明治図書）</p>	
評価方法	最終時に執筆するレポートによる。		
受講者に対する要望など	随時レポートを課すことがある。評価の際には、それも参考にする（出欠は特にとらない）。		

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	問題行動とは何か (1) ——問題とする視点を問う
2	” (2) ——公的カテゴリーとしての問題行動
3	戦後問題行動の歴史と社会学的解釈 (1) ——オイルショックまで
4	” (2) ——オイルショック以降
5	いじめを考える (1) ——ビデオ鑑賞 (1)
6	” (2) —— ” (2)
7	” (3) —— ” (3)
8	どのようにして、いじめをなくしてゆくか
9	体罰を考える (1) ——ビデオ鑑賞
10	” (2) ——体罰はなぜいけないのか
11	まとめ
12	レポート執筆
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	問題行動とは何か (1) ——問題とする視点を問う
2	” (2) ——公的カテゴリーとしての問題行動
3	戦後問題行動の歴史と社会学的解釈 (1) ——オイルショックまで
4	” (2) ——オイルショック以降
5	いじめを考える (1) ——ビデオ鑑賞 (1)
6	” (2) —— ” (2)
7	” (3) —— ” (3)
8	どのようにして、いじめをなくしてゆくか
9	体罰を考える (1) ——ビデオ鑑賞
10	” (2) ——体罰はなぜいけないのか
11	まとめ
12	レポート執筆
備考	

科目名	生徒指導法（前）	担当者名	佐藤利明
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>生徒指導は、学校教育において生徒一人ひとりが生きがいを感じ充実した生活ができるようにし、それぞれのもつ個性を伸ばし、自己実現が図れるよう資質・態度の育成を目指すもので、人間形成のうえで重要な機能をもっている。このことへの理解と、各場面での援助・助言・指導のあり方を学び、さらに学校教育の今日的な重要課題について対応がはかれるようにしたい。</p>		
講義概要	<p>生徒指導の意義、課題、原理及び領域論と機能論。  時代に応じた変遷を理解し、生徒理解の場と方法、個別指導、集団指導、非行及び問題行動の対応の実際。  生徒指導と教育課程、進路指導、教育相談、地域社会との連携、及び校内全教職員の共通理解のもと推進されることを講義する。</p>		
使用教材	テキスト	現代の生徒指導 文教書院 プリント配布	
	参考文献	生徒指導の手引（改訂版）文部省	
評価方法	レポート評定と定刻出席 レポート提出 教務課あて、平成8年7月23日（火）〆切 レポート課題等、最終時出題。		
受講者に対する要望など	止むを得ず欠席の場合は、事前に欠席届と、作文（課題はその都度提示）を提出する。事後の場合は、すみやかに同様提出する。		



前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	生徒指導とは。
2	時代の変遷で生徒指導はどう変わったか。
3	生徒理解。
4	個別指導の進めかた。集団指導の進めかた。
5	非行に生徒指導はどう対応するか。
6	いじめと生徒指導の対応。
7	登校拒否・高等学校中途退学者と生徒指導のかゝわり。
8	生徒指導と学校の指導体制。
9	学級担任と生徒指導とのかゝわり。
10	教育課程と生徒指導とのかゝわり。
11	人間としての生き方、進路指導と生徒指導。
12	生徒指導をめぐる諸問題、レポート課題提示。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	生徒指導法	担当者名	福島哲夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>生徒との信頼関係の樹立、生徒や父母、その他の関係者と協力して問題解決に当たる姿勢の確立を目的とする。そのために「よりよい聴き方」と「優しさと厳しさのバランスの取れた指導法」の習得をめざす。また、実習を通じて各人の偏りや持ち味などへの自己理解も深めたい。</p>	
講義概要	<p>上記の目標を達成するためにできるだけたくさんの「ロールプレイ」や実際の実例に即した実習、グループ討議、視聴覚教材を使った学習をおこなう。特にできるだけいろいろな種類の事例に触れていくことで、生徒理解を深め、「その場」で起きている人間関係の実質を感じ取れる感性を養うよう心がけて行きたい。</p>	
使用教材	テキスト	適宜、提供・紹介する。
	参考文献	
評価方法	<p>評価は授業への参加度とその際の習熟度、および試験によって決定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>体験と習熟を最も重要とする授業であるため、遅刻・欠席をせぬよう努めていただきたい。参加することを第一の意義とする。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では半年間の講義概要の説明と、生徒指導における「聴く」ことの重要性について考える。
2	第2回目の授業では「聴く」ということについてさらに考察し、受講生同士の話を「聴く」実習をもとに話し合う。
3	第3回目の授業ではカウンセリング事例のテープを聴き、その要点について考える。
4	第4回目の授業では「不登校ぎみの中学生の事例」を読み、事例への理解を深め、さらにロールプレイを通じて、どのように対応したらよいかを考える。
5	第5回目の授業では前週の実例についてさらにロールプレイをかさね、「聴き方」「関わり方」の要点を身につける。
6	第6回目の授業では「反抗的な生徒の実例」を読み、考察と実習を深める。また、受講生の自己理解のために簡単な心理テストを実施する。
7	第7回目の授業では前週の実例の復習と生徒理解のための精神医学の基礎を講義する。
8	第8回目の授業では「孤立しがちな生徒の実例」を読み、事例に即して考察と実習を深める。
9	第9回目の授業ではさらに別の事例に即して、考察を実習を深める。
10	第10回目の授業ではさらに別の事例に即して、考察を実習を深める。
11	第11回目の授業ではさらに別の事例に即して、考察を実習を深める。
12	第12回目の授業ではこれまでの授業のまとめとレポートのテーマ発表を行う。
備考	開講の曜日・時限は時間割で確認すること。

科目名	教育実習 I (後)	担当者名	佐藤利明
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>教育行政のしくみ及び学習指導要領・教育課程の基本的事項と、魅力ある授業の展開方法、教師と生徒とのよい人間関係をつくるうえでの心がまえ、さらに教師の日常生活を理解し、一層充実した感動ある教育実習に資する。</p>		
講義概要	<p>都道府県・市町村教育委員会と学校及び教職員の関係。          私立学校。          教育職員としての専門性。          学習指導要領の根拠とねらい及び教育課程。          学習指導案の立案。          よい授業をすすめるための教材研究と授業の実際。          生徒指導・道德教育・特別活動・同和教育・生徒理解等。          教師の一日。          職員会議、学年会、教科会等各会議への参加の心構え。          学校教育の今日的課題。</p>		
使用教材	テキスト	<p>教育実習の指針（獨協大学教務部学務課免許課程係編集・発行）          プリント配布</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>レポートの評定と定刻出席          レポート提出 教務課あて 平成9年1月22日（水）まで          レポート課題 最終時出題。</p>		
受講者に対する要望など	<p>止むを得ず欠席の場合は、事前に欠席届と、作文（課題はその都度提示）を提出する。事後の場合はすみやかに同様提出する。</p>		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	(1) 講義概要説明 (2) 学校教育に関する関係法令・規則の概要 (3) 目的と目標 (4) 私立学校 (5) 都道府県・市町村教育委員会と学校及び教職員。
2	教育職員の専門性。(教職観、教師像、職務内容、研修、生徒理解等)
3	学習指導要領(各審議会答申を含む)のねらい、中学校教育と高等学校教育の発達段階(課題)に応じた一貫性ある教育。
4	教育課程編成、年間指導計画と毎時の学習指導案の実際。
5	よい授業をするための教材研究と学習指導案の実際。
6	学習指導の実際、指導方法、成就感・成功感を味わらせる指導等。
7	生徒指導のねらい(特に心の教育の充実ほか3項)の具現化、生徒理解、同和教育等、学校事故。
8	道徳教育のねらい、資料と指導案のたてかた。
9	特別活動のねらい、学級(H・R)活動の指導の実際と学級(H・R)経営。
10	教師の一日、出勤から退勤までの活動のなかで特に留意する事項。
11	職員会、学年会、教科会等への参加と心構え。
12	教育実習へ臨むについてのまとめ、学校教育の今日的課題と対応、レポート課題提示。
備考	

科目名	教育実習 I (後)	担当者名	藤井光男
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>教職について深い認識をもち、実際の教育実習で生きて働く力となる実践的な教育理念や、現場のもつ課題に対する対処の仕方、方法を研究し、現在かかえている教育問題の解明に取り組み、教育実習の目標が達せられる資質を身につける。</p>		
講義概要	<p>学習指導要領が改訂され、小・中・高が本格的に 21 世紀に向けて始動した。即ち社会の変化に対応する能力の育成と、個性を重視した教育の充実である。人間を尊重する教育の重要性が益々求められている今日、思いもよらぬ教育問題が多発しているのが現状である。教師の使命の重大さを一層認識しなければならないし、その期待に添える教師の育成に拍車をかけなければならない。この意味からも、教育実習のもつ本質を理解させ、即実践性のある力を備える必要がある。多発する課題や現場の問題を取り上げそれに備え教育実習の糧とする。</p>		
使用教材	テキスト	「現代の生徒指導」文教書院発行	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領</li> <li>・高等学校学習指導要領</li> </ul>	
評価方法	<p>各1回のレポートの提出と出席をもって評価する。やむを得ず欠席する者は、必ず担当者より課題の提示を受け提出することを厳守する レポート提出は、1月23日(火) 教務課</p>		
受講者に対する要望など	教職を志望する者		

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	教育課程の趣旨と多発する教育問題についての把握と今後の動向について
2	教育実習の目的・教育実習の内容についての把握
3	学習指導要領と各専門教科とのかかわり。教育現場の研究。観察と参加の仕方。
4	学習指導の実際とその指導方法（よい授業をするにはどんな配慮が必要か）について－(1)
5	学習指導の実際とその指導方法（よい授業をするにはどんな配慮が必要か）について－(2)
6	教科担当・学級担当としての教科・学級の経営のあり方や、諸問題について取り上げよりよい教科担当・学級担任としての資質の向上をはかる
7	生徒指導・特別活動のかかわりを認識し、当面する教育実習に効果を図る
8	教師の学校における役割や、実際の教育活動に対する問題点を摘出し、その対処の仕方や解決方法について
9	道徳教育の授業実践の方法を学び、道徳教育と他教科の関連を十分に理解し、教育実習の効果を図る
10	中学校、高等学校の特質をよく認識して、教育実習校に対する心構えを高め、よりよい実習ができるよう努める
11	教育実習に対する詳細についてまとめ、目的が達せられるよう、各校種について吟味する。
12	まとめ レポート課題の提示
備考	

科目名	教育実習 I (後)	担当者名	小川 一郎
-----	------------	------	-------

講義の目標	<p>教育実習について、その概要を理解し、目的意識をもつてのぞめるようにする。そのためには教育実習の意義や目的について、先ず、十分に理解することが大切である。</p> <p>実習校に新風を吹き込んで生徒に刺激を与えるために、実習にのぞむ心構え、生徒とのコミュニケーションのとり方などを重視する。さらに、実習期間における仕事の内容を理解させ、十分に事前の準備ができるようにする。</p>		
講義概要	<p>教育実習の意義・目的について</p> <p>教師の仕事の性質について</p> <p>教師の資質とその形成について</p> <p>実習にのぞむための目的意識とその準備</p> <p>学校の仕事の内容について</p> <p>学校の現代的課題について</p> <p>実習生の立場について</p>		
使用教材	テキスト	適宜、プリント配布	
	参考文献	小川一郎編著『ホームルーム担任必携』文教書院	
評価方法	評価は、レポートと授業への参加を考慮して決定する。		
受講者に対する要望など	<p>教育実習の事前指導なので、講座に出席することが大切である。</p> <p>教育実習が間近に迫るといろいろな不安や疑問をもつようになる。十分な準備と心構えをつくる必要がある。</p>		



前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	教育実習Ⅰ、Ⅱが制度化された意義や目的について、また、この講座の概要について
2	教師の仕事の性質、教師の資質について
3	教育実習の意義・目的について 先輩実習生の感想、意見などについて
4	教育実習全般の事前の準備や実習校との連絡、実習期間、事後の対応、心得と準備について
5	教育実習の形態、(1) 観察、(2) 参加、(3) 教壇実習について
6	教育実習の仕事の内容、学校の教育活動の概要について
7	研究授業への対応、教材研究について、特に、教材研究には多くの時間を必要とするので、その自覚と心構えについて
8	学級担任としての学級経営と学級経営上の諸問題について
9	学級担任としての生徒指導、進路指導について、最近、いじめ、登校拒否(不登校)、高校中途退学など対応のむずかしい問題が増加しているのでその対応について
10	生徒理解の方法と生徒とのコミュニケーションについて
11	教師として義務づけられている研修と法規について。 教師としての服務や勤務など、必要な法規について
12	教育実習の記録、反省など教育実習日誌の記録や毎日の指導教官との報告、連絡、相談について。
備考	

科目名	教育思想史（後）	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	----------	------	---------

講義の目標	<p>教師には歴史的知識とセンスが求められる。歴史は教育の現実を把握するための方法手段として意味があるだけでなく、教育実践そのものが、様々な歴史意識によって動かされる面があるからである。講義は西洋教育史を中心としたものであるが、人々がどのような教育思想によって教育を発展させてきたかを学んでいきたい。</p>		
講義概要	<p>講義内容は、近代教育思想を中心としたものになる。コメニウス、ロック、ルソー、カント、ペスタロッチー、ヘルバルト等の思想について講義する。この他に、近代の公教育制度の成立の歴史を、ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ等を中心に比較したいと思っている。</p>		
使用教材	テキスト	『近代教育史』教師養成研究会 学芸図書株式会社	
	参考文献	『現代に生きる教育思想』1～8巻 ぎょうせい 『近代ヨーロッパの教育と政治』長尾十三二著 明治図書	
評価方法	定期試験を実施する。		
受講者に対する要望など			

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	古代社会における教育……ギリシャ、ローマの教育について
2	中世社会における教育……キリスト教における教育と世俗的教育
3	ルネッサンスと宗教改革における教育
4	市民革命期における教育 (1) 公教育思想の発展
5	(2) 各国の近代化と教育政策
6	(3) 啓蒙期の教育思想家
7	産業革命期における教育 (1) 公教育制度の形成
8	(2) 産業革命期の思想家
9	新教育運動について (1) 新学校について
10	(2) 新教育の思想家
11	教育改革と現代教育の課題 (1) 民主主義と教育
12	(2) 科学技術の発展と教育
備考	

科目名	教職演習	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	------	------	---------

講義の目標	<p>将来教職をめざそうとする人に、ゼミ形式の学習形態で、必修の科目に含み切れない内容等を自由に勉強してもらうために開設されたものである。必修の単位を集めれば教員免許は取得できるが、その枠をこえたところで自主的に学ばれるものが将来の教師の基礎力（教育と研究の両面で）となり、また人間としての幅（教養）を形成することは間違いない。教職課程を履修する人は、学部学科の主専攻のゼミの勉強に加えて、副専攻のゼミのつもりで積極的に参加されることを希望する。</p>		
講義概要	<p>参加する者が自主的に学びたいテーマを見つけて一年間かけて研究的に勉強することを援助する。昨年度は「ことばの教育について」と「コールバークの道徳理論」等が自主研究のテーマであった。また講義では教師論や教育実践論等を中心にテキストを参考にしながら勉強することも行われる。平成8年度は、授業論等に関するテキストを読み進める予定である。</p>		
使用教材	テキスト	『教育実践学』高久清吉著 教育出版	
	参考文献	必要に応じて指示する。	
評価方法	<p>自主研究についての研究発表と一年間のまとめ（ゼミ論）によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	日本史概説	担当者名	新井孝重
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>前期には、古代から中世の変革の「法則」を具体的な歴史叙述を読みとるなかで学びとる。歴史を理論的、哲学的に学びたい。後期には、なるべく歴史の全体を構造的に流れをおって把握するようにしたい。</p>		
講義概要	<p>戦後歴史学の主要な学説は、領主制理論というものが主軸になっている。奴隷制的経済制度を揚棄して、新たな経済制度である農奴制が形成されるが、そうした変革期の中世農村のすがたを、村落共同体、武士団、荘園制などの歴史事項を通して学ぶ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>石母田 正『中世的世界の形成』（岩波文庫） 竹内 誠（他）編『史料教養の日本史』（東京大学出版会）</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は、後期の年度末試験の成績にもとづいておこなうものとする。</p>		
受講者に対する要望など			

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業。『中世的世界の形成』という書物のあつかうテーマ、叙述の構成を紹介して、これを読書することの学問的意義を論ずる。
2	第2回目の授業。第1章 藤原実遠 (私営田領主としての藤原実遠の所領の成立。構造、特徴を説明)
3	第3回目の授業。第1章 藤原実遠 (私営田経営の破綻の必然性、初期領主実遠の没落とその跡にあらわれる東大寺の支配をみる)
4	第4回目の授業。第2章 東大寺 (I) (古代の東大寺の財政的逼迫、畿内近国荘園としての黒田荘建設運動の様態をみる)
5	第5回目の授業。第2章 東大寺 (II) (東大寺の公領侵略にあたっての独特の古代的論理を、荘の住民の身分規定を通してみる)
6	第6回目の授業。第2章 東大寺 (III) (古代都市奈良に所在する東大寺は本質的に農村と敵対する法をもっていた。古代法と中世法の二つの法をみる)
7	第7回目の授業。第3章 源俊方 (I) (農村の支配者源俊方について、彼の家系、生活の形態、精神、感情などをみる)
8	第8回目の授業。第3章 源俊方 (II) (源俊方とその一統からなる在地の武士団を、存在構造・惣領制などを通してみる)
9	第9回目の授業。第3章 源俊方 (III) (源俊方は農村の領主的支配権を守るために東大寺と戦って敗れる。その後農村の武士は封建的領主への成長に失敗)
10	第10回目の授業。第4章 黒田悪党 (I) (武士の敗北のあと、東大寺は悪僧を荘園に下向させて武装統治にあたる。東大寺によって古代は再建された)
11	第11回目の授業。第4章 黒田悪党 (II) (荘園支配の矛盾に遭遇する寺家は新しい統治方式を生みだすが、それがいかなるものであったかをみる)
12	第12回目の授業。第4章 黒田悪党 (III) (東大寺に反抗する在地の武士が悪党としてしか存在しえなかったことの意味を考える。)
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業。律令国家の構造 (律令制のしくみと矛盾と動揺の道筋をわかりやすく説明)
2	第2回目の授業。摂関政治と院政 (摂関政治の特質とそのあとにくる院政のありようを、政治史的に概観する)
3	第3回目の授業。荘園制と武士団 (土地制度に注意しながら、武士が発生する社会的土壌をさぐる。また、本来武士とは何かということも考える)
4	第4回目の授業。鎌倉幕府 (武家政権としての鎌倉幕府について、将軍、執権などの地位と機能について論じ、さらに得宗専制政治についても展望する)
5	第5回目の授業。南北朝内乱と室町幕府 (内乱の前提から説きおこして、元弘内乱、建武新政、新政崩壊、室町幕府成立にいたる過程を説明する)
6	第6回目の授業。大名領国の展開 (守護領国とはいかなるもので、それと国人層とはどのような関係にあるか、また戦国大名の台頭とは、を考える)
7	第7回目の授業。惣と土一揆 (中世の民衆の結集のしかたと、かれらの闘いについて考える。惣とは何か、土一揆とは……具体的に説明したい)
8	第8回目の授業。近世社会の成立 (信長政権、秀吉政権、徳川政権について、歴史的な過程をふくめて説明する)
9	第9回目の授業。対外関係と鎖国 (西欧文化の到来が日本に与えた影響、なぜキリスト教を徳川氏は禁じたのか、「鎖国」の意味について説明する)
10	第10回目の授業。幕藩制社会 (幕府と藩の関係、社会をなり立たせている身分原理について、なるべく具体的に説明する)
11	第11回目の授業。近世社会の動揺 (I) (幕政、藩政の改革についてみる。また改革を余儀なくされた政治、経済の矛盾はどこにあったかをみる)
12	第12回目の授業。近世社会の動揺 (II) (商品作物生産の盛行と農民層の分解、流通・物流の変化を都市の問題などを通して考える)
備考	

科目名	外国史概説Ⅰ・Ⅱ（東洋史概説）	担当者名	熊谷哲也
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>イスラームが勃興する7世紀以降の西アジアの歴史について学ぶ。そこに生きる人々が共有する宗教や文化についても検討したい。彼らの意識や行動を、単にわれわれの常識や直感だけで判断することは難しい。これは、西洋によって歪められた東洋観がわれわれの常識を支配しているためでもある。これらの問題に留意し、多角的に歴史を検討することを目的とする。</p>	
講義概要	<p>前期（外国史概説Ⅰ）では、イスラームの創始とその後の歴史の流れを概観し、広大な宗教・文化圏が成立する過程について理解する。ヨーロッパ・キリスト教世界との関係についても留意したい。イスラーム教にかんする基本的な知識もあわせて解説する。</p> <p>後期（外国史概説Ⅱ）では、イスラーム世界のさまざまな断面にスポットをあて、毎回テーマを変えてすすめてゆく。これによって、今日のイスラーム諸国にかんするさまざまな問題を理解するための糸口となるよう努める。</p>	
使用教材	テキスト	とくに定めない。
	参考文献	授業で指示する。
評価方法	<p>前期末と後期末にそれぞれ筆記試験をおこなう。（東洋史概説として通年受講する者も同じ）</p>	
受講者に対する要望など	<p>外国史概説Ⅱを後期から受講する者は、夏休み明けの第1回目を欠席しないよう配慮すること。</p>	



## 前期 (I)

## 年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。イスラーム教の六信五行（五柱）について説明する。
2	ユダヤ教・キリスト教とイスラーム教の関係について理解する。これら3つの宗教は多くの共通点を持ち、それらの関係は今日においても重要な問題である。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、商業都市メッカ社会について考える。
4	預言者の死後、互選によって彼の代理人（カリフ）が選ばれたが、そのうち最初の4人が支配した正統カリフ時代について考える。
5	ウエイヤ朝からアッバース朝への移行が、ヴェルハウゼンの古典理論による「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行とされる意味を検討する。
6	アッバース朝の弱体化に伴い10世紀ころから各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。
7	エジプトのマムルーク朝について学ぶ。マムルーク軍人による支配、とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
8	オスマン朝の成立と発展について考慮する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。
9	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代などについて検討する。
10	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。イスラームの学問、思想がヨーロッパ世界の近代化に及ぼした影響について検討する。
11	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。ヨーロッパ世界が優勢となる経緯と、それによって形成された彼らによる東洋観、イスラーム観について検討する。
12	まとめを行う。
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	イスラーム教の基本事項を確認する。後期から外国史概説Ⅱを受講する者へのオリエンテーションをかねる。
2	イスラームの教義と、その土台である、コーラン（クルアーン）とハディースについて説明する。
3	イスラーム世界の学問の担い手であるウラマーについて。その知識人階層としての、政治権力との関係や社会的な役割について考える。
4	イスラーム神秘主義思想（スーフィズム）について。その内容と、民衆の教化にはたした役割について検討する。
5	イスラーム世界の儀礼について、人々の日常生活におけるさまざまな慣習も含めて説明する。
6	イスラーム法（シャリーア）について内容を説明する。またそれにもとづく人々の社会生活について考える。
7	ワクフ制度や商業倫理など、イスラーム社会を考えるうえで欠かせない事柄をとりあげて検討する。
8	イスラーム世界の都市と社会生活について概観し、イスラームが都市の文明と呼ばれる背景を検討する。
9	イスラーム世界における文学（アラブ文学）や芸術について概説する。
10	近代ヨーロッパにおける帝国主義とイスラーム世界との関係について概説し、西洋の衝撃によってイスラーム世界内部にあらわれたさまざまな運動の内容を考察する。
11	イスラーム諸国の成立と、それらが抱えるさまざまな問題について考える。
12	まとめを行なう。
備考	

科目名	外国史概説Ⅲ・Ⅳ（西洋史概説）	担当者名	久慈栄志
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>「和魂洋才」という言葉が示す通り、明治・大正期はもちろん、21世紀を目前とした今日においても依然として日本人及び日本社会の底流にはこの考え方が生き続けている。明治維新によって華麗なる変身を遂げた日本だが、それは単にヨーロッパ文化・諸制度の模倣であったのか否か。日本人が受容し「血や肉」としたヨーロッパの「伝統」とは何だったのかを考えたい。ヨーロッパ世界が関係するさまざまな歴史事象を検証し、その功罪を論ずることは21世紀におけるヨーロッパの役割を考える上で1つの手がかりとなるだろう。</p>		
講義概要	<p>前期はヨーロッパ世界の成立から18世紀位までを、後期は19世紀から現代史までを扱う。すべてを網羅することは時間的に不可能であるから、各時代においてヨーロッパ圏内はもとより、周辺世界に対してもインパクトが大であった事項をピックアップして取り上げる。前近代は宗教的側面から、近代以降は経済的側面を中心にアプローチを試みたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>テキストは特に指定しないが、下に掲げた参考文献中2～3冊は目を通してほしい。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西嶋定生、木村尚三郎他編「世界歴史の基礎知識」(1)(2) 有斐閣</li> <li>・山本茂他編「西洋の歴史（古代・中世編）」ミネルヴァ書房</li> <li>・大下尚一他編「西洋の歴史（近現代編）」ミネルヴァ書房</li> <li>・阿部謹也著「自分のなかに歴史をよむ」筑摩書房</li> <li>・猪口邦子著「戦争と平和」〈現代政治学叢書17〉東大出版会</li> <li>・北原敦他編「ヨーロッパ近代史再考」ミネルヴァ書房</li> </ul>	
評価方法	<p>外国史概説ⅢとⅣは各々試験を実施し別々に評価する。 西洋史概説は前期と後期の2回の試験によって総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>高校世界史レベルの基礎知識はマスターしておくこと。また年表や図録は常に座右に置き、前後関係や時代背景をつかんでおくこと。</p>		

前期 (Ⅲ)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 歴史学の役割と学ぶ姿勢。時代区分。
2	ドイツと「獨逸学協会」 本学の前身である「獨逸学協会学校」についてその設立経緯と、目ざしたものは何かを考える。
3	ヨーロッパ世界の成立 (フランク王国から神聖ローマ帝国へ)。諸部族統合の過程と教会勢力との結びつきの意義を考える。
4	ローマ教会の絶頂 カノッサの屈辱、十字軍の遠征等に見られるローマ社会の権威とその背景について説明する。
5	中世社会(1) 荘園制度、領主権力、農民の生活等を考察し「ヨーロッパ中世像」を描きたい。
6	中世社会(2) 経済活動に焦点をあて、本当に「暗黒の中世」であったのかを考える。
7	宗教改革 その背景と「近代」の戸びらを開かせたインパクトについて考える。
8	ルネサンス・大航海時代 価値観の転換と資本主義の胎動、ヨーロッパ優位を前提とした世界分割について説明する。
9	イギリス革命 フランス革命、アメリカ独立を導き出した原動力と今日なお受け継がれている精神は何かを考える。
10	産業革命(1) 拝金主義とヨーロッパの国家間優劣について考える。
11	産業革命(2) イギリスを例とした、産業革命全盛期の国民生活の状況と、社会主義運動の必然性について説明する。
12	予備
備考	

後期 (Ⅳ)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 前期の簡単な復習と、後期で扱う諸問題の概観。
2	フランス革命 フランス国民が求めた理想と予期せぬ展開、そしてその対処方法について考察する。
3	ナポレオンとウィーン体制 「英雄待望論」とその挫折、ウィーン体制というヨーロッパ新秩序はフランスに何を残したのか。
4	19世紀のドイツ(1) 当時のドイツの政治制度、社会等を概説し、何がこの国を「後進国」ならしめているのかを考えたい。
5	19世紀のドイツ(2) 「ドイツ関税同盟」の意義と成果を説明する。
6	普仏戦争とドイツの台頭 ヨーロッパの後進国ドイツが一等国に変身し、世界舞台に登場するに及び英仏にいかなる脅威を与えたかを説明する。
7	帝国主義と世界再分割 資本主義の矛盾と限界、経済活動と戦争がいかに密接であるかを考える。
8	第一次世界大戦 科学技術の発達が必ずしも社会的、経済的幸福につながらぬ実例である。人間の性と飽くなき物欲について考えたい。
9	ロシア革命 社会主義の最初の実践地となったロシア、その成功の背景をさぐる。
10	戦間期の諸問題 ヴェルサイユ体制の本質。世界恐慌によって引き起こされた極端なナショナリズム。「弱肉強食政策」が行き着く先は？
11	第二次世界大戦 ブロック経済、ナショナリズム、自国防衛、そして現状維持の困難と暴発。なぜ人間は愚行を繰り返すのか。
12	予備
備考	

科目名	地理学概説	担当者名	山本 充
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>地理学において用いられてきた主要な概念を理解し、実際に様々な分野で、これらの概念を用いて地理学者がどのような研究を行っているのか展望することを通して、地理学的な見方、考え方を身につけることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>まず前期において、地理学における重要な概念である「地域」、「伝播」、「環境」、「統合」、「景観」を理解し、それぞれの概念の定義と応用、基礎的知識について学ぶ。これをふまえて後期では、幅広い地理学の分野の中で、これらの概念を用いて実際に地理学者が対象に対してどのようなアプローチをしているのか概観する。ここでは、人口、農業、政治、言語、宗教、民族、民俗文化、大衆文化、都市がトピックとして取り上げられる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>とくに教科書は指定しない。毎回、資料を配布し、そこで参考文献を提示するので、それを参照されたい。理解を助けるために、地図帳を持参することをすすめる。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前後期2度のレポートと出席状況による。</p>		
受講者に対する要望など			

## 前期

## 年間講義予定

週	主要テーマ
1	講義の概要説明。主要概念の理解。地域 (1) : 地域の定義、地域区分の手法
2	地域 (2) : 地域構造の把握
3	伝播 (1) : 伝播の理論と類型
4	伝播 (2) : イノベーションの受容
5	環境 (1) : 環境論の変遷
6	環境 (2) : 地形の形成と分類
7	環境 (3) : 気候と植生、人間活動と気候変動
8	統合 (1) : 地理学におけるモデル構築
9	統合 (2) : 地理学における計量的手法
10	景観 (1) : 景観論の変遷
11	景観 (2) : 景観の読解法
12	主要概念のまとめ
備考	

## 後期

週	主要テーマ
1	前期の課題の返却と寸評。前期の復習と後期の概要説明。
2	人口 : 世界の人口分布、人口移動、人口抑制策の伝播、人口の偏在と環境要因・文化要因、集落形態
3	農業 : 世界の農業様式、農耕の起源と伝播、農業と環境、農業と民族、農業景観
4	政治 : 国家の形態と安定性、政治イデオロギーの伝播、地政学と環境論、投票パターンと経済社会的要因、国境の両側の地域の景観
5	言語 : 世界の言語の分布と伝播、言語の避難所としての環境、経済発展と言語の衰退、言語の表現としての地名
6	宗教 : 主要宗教の起源と現在の分布、宗教の性格と環境、宗教と環境の改変、宗教と経済・食習慣、生の景観・死の景観
7	民族文化 : 民族文化地域、民間療法、民族知識・民族分類、民族建築
8	大衆文化 : スポーツ・嗜好食品の地域、メディアと大衆文化の伝播・変容、大衆文化と環境破壊、エリート空間
9	民族 : 民族地域、民族移動と文化の伝播、居住地選択、民族と産業活動、民族と集落パターン
10	都市1 : 世界の都市地域、都市の内部構造、都市形態の発達、都市の拡大
11	都市2 : 都市の立地と環境、都市活動と環境変化、都市景観の知覚
12	地理学の応用について。後期のまとめ。
備考	

科目名	地誌学概説Ⅰ・Ⅱ（地誌学概説）	担当者名	山本 充
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>特定の地域を研究対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。ここでは、地誌学における重要な概念「地域」と地域の分析方法を理解した上で、これらを用いて事例地域をとりあつかうことを通して、地誌学における地域の見方を身につけることを目的とする。</p>	
講義概要	<p>まず、地理学の中における地誌学の位置、ならびに地誌学における重要な概念「地域」を理解し、地域を扱う上で必要な文献や地図類の種類と利用法、地域の分析手法についても習得する。これらをふまえて、ヨーロッパを事例としてとりあげ、自然環境、民族と国家、都市と農村などとそれらの相互関係を考察することを通して、一般的な地域の見方を学ぶ。</p>	
使用教材	テキスト	<p>とくに教科書は指定しない。毎回、資料を配布し、そこで参考文献を提示するので、それを参照されたい。理解を助けるために、地図帳を持参することをすすめる。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>前後期2度のレポートと出席状況による。</p>	
受講者に対する要望など		

前期 (I)

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明。地域概念の考察 (1) : 地域概念の変遷、地域の定義
2	地域概念の考察 (2) 等質地域と機能地域
3	地域構造の把握 (1) 地域構造図、地域構造モデル
4	地域構造の把握 (2) 地域区分、地域と人間
5	地域分析の基礎 (1) : 地域文献・資料・統計の所在と検索
6	地域分析の基礎 (2) : 地図の種類と利用、主題図作成の基礎
7	地域分析の手法 (1) : 現地調査の基礎
8	地域分析の手法 (2) : 統計分析の基礎
9	地域分析の手法 (3) : GIS 地理情報システムの基礎
10	事例地域ヨーロッパの位置と自然環境 : 半島としてのヨーロッパ、気候と植生
11	ヨーロッパにおける民族のモザイク (1) : 言語と宗教の伝播と分布
12	ヨーロッパにおける民族のモザイク (2) : 少数言語集団の問題、前期のまとめ
備考	

後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	前期の課題の返却と寸評。前期の復習と後期の概要説明。
2	ヨーロッパの国家と超国家組織 (1) : 国家の分裂と統合
3	ヨーロッパの国家と超国家組織 (2) : EU・国家・地域の関係の変化、国境の役割
4	ヨーロッパの都市 (1) : 人口の集中と都市発達史
5	ヨーロッパの都市 (2) : 都市の形態と機能
6	ヨーロッパの都市 (3) : 外国人労働者と都市
7	もう一つのヨーロッパー農山村 (1) : 伝統的農業と集落形態、民家
8	もう一つのヨーロッパー農山村 (2) : 周辺農山村のすがた
9	もう一つのヨーロッパー農山村 (2) : 都市近郊農村の変容
10	ヨーロッパの産業 : 工業生産と人、もの、情報の流れ、資源と産業の発達
11	ヨーロッパの交通 : 内陸河川の役割、高速道路と環境問題、高速交通時代
12	ヨーロッパの地域構造 : ヨーロッパの東と西、南と北、中心と周辺
備考	

科目名	地理学調査法	担当者名	犬井 正・山本正三
-----	--------	------	-----------

講義の目標	<p>地理学では、自然地理学、人文地理学にかかわらず、フィールドワークが重要である。また地理教育でも自然・人文に関する地域調査を重視している。本講座は文献資料による調査法のみならず、フィールドワークを実施し、地域調査の立案・指導・評価の実際について学んでいく。</p>	
講義概要	<p>文献資料の収集法、質問紙の作成法、読図法、データ処理法などのインドアワークだけでなく、歩測図の作成などの野外実習などを経験した後に、2泊3日のフィールドワークを行う。フィールドワーク実習は、例年、前期の定期試験終了後に、福島県新甲子にある獨協大学研修所を拠点として実施している。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	<p>実習レポートの結果および議義等への貢献度を総合的に判断する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>実習に参加できない者は、評価が不能であるため、選択しないこと。</p>	



前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等のオリエンテーションを行う。受講者多数の場合は、第1週出席者を優先する。
2	自然環境の調査法と利用可能資料の入手法について。
3	同 上
4	地図の活用法。
5	歩測図の作成原理と作成実習。
6	同 上
7	同 上
8	地域調査の計画と指導法について。 聞き取り調査法とアンケート項目の作成法など。
9	野外調査法の実際（バス巡検、土地利用調査などのフィールドワーク、各種施設の見学）。 前期定期考査直後実施の2泊3日の実習で振り替え。
10	同 上
11	同 上
12	収集資料の整理、活用と報告書の作成方法。
備考	

科目名	心理学概論	担当者名	林 潔
-----	-------	------	-----

講義の目標	<p>この授業では、教職につく場合に必要とする心理学の基礎について紹介します。 すなわち、授業と生徒指導と進路指導に関するテーマの紹介が前期の中心です。 また後期は、前期の内容の応用として生徒指導の問題を中心に考えます。</p>		
講義概要	<p>人間をどのように考えるかということによって、人間に対する働きかけの方法も異なって来ます。まず、人間についての心理学的モデルについて考え、テーマを青年期にしぼって行きます。そして、授業と生徒指導、進路指導の基本的アプローチについてとりあげます。 後期は主として生徒指導の具体的問題を取りあげて行きます。</p>		
使用教材	テキスト	林・瀧本・鈴木 「カウンセリングと心理テスト」 ブレーン出版	
	参考文献	随時紹介	
評価方法	平常点とレポート。受講者数によっては期末試験を行いません。		
受講者に対する要望など	授業中に積極的に発言して下さい。		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	教育活動における心理学の役割(1) Allport の心理学的モデル(1) ガイダンスのモデルとして紹介している3つのパターンについて。
2	Allport の心理学的モデル(2)
3	青年期とその特徴 青年期と、その今日的問題について。
4	性格をめぐる諸問題 基本的性格論と性格形成について。
5	生徒指導とカウンセリング(1) 今日この分野に大きな影響を与えた、Rogers のカウンセリングについて。
6	生徒指導とカウンセリング(2) 人間の行動形成は学習の結果であるとする、行動療法の取り組みについて。
7	生徒指導とカウンセリング(3) その人の考え方を行動変容の媒体としようという、認知行動療法の取り組みについて。
8	最近の教育心理学(1) 日本教育心理学会の最近の報告を紹介し、それについて考えます。
9	生徒指導と心理テスト(2) 生徒指導に用いられる心理テストについて紹介します。
10	生徒指導と心理テスト(2)
11	リーダーとしての教師 教師をクラスのリーダーとしてとらえ、その条件について考えます。
12	授業の心理 授業における生徒の側の条件について考えます。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	教育活動における心理学の役割(2) 前期のまとめと、後期への展望
2	交流分析とエゴグラム(1) 人間の行動は、必ずしも意識レベルのものだけではないことを、交流分析によって考えます。
3	交流分析とエゴグラム(2)
4	交流分析とエゴグラム(3)
5	青年期の悩み 中・高校生の問題、悩みについて考えます。
6	生徒の問題と対応(1) 登校拒否をとりあげます。
7	生徒の問題と対応(2) いじめをとりあげます。
8	生徒の問題と対応(3) 精神障害をとりあげます。
9	生徒の問題と対応(4) 進路相談をとりあげます。
10	最近の教育心理学(2) 日本教育心理学会の最近の報告を紹介し、それについて考えます。
11	生徒の問題と対応(5) その他の問題をとりあげます。
12	子供の問題と家族のかかわり 最近の家族療法のアプローチを中心に、方法論について紹介します。
備考	

科目名	社会学概論	担当者名	有吉広介
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>中学・高校の社会科教育のなかで取りあげられる関係事項を中心として、現代の社会生活を理解するための基礎的な考え方を講義する。</p>		
講義概要	<p>まず、社会的存在としての人間の諸相を考えるための基本的な概念を取りあげ、そのなかで、人間、社会および文化の相互関係を考察する。ついで、社会生活の基本単位といわれる家族集団が、近代化のさまざまな過程のなかでどのように変化してきたかを問題にする。特に核家族化の問題点を考察する。引き続いて、近代から現代にわたって展開してきた社会の産業化、都市化、大衆化、官僚制化、学歴社会化、情報化、および福祉化の諸現象に逐次ふれながら、現代の社会問題の基礎を明かにする。最後に、今日解決をせまられている高齢社会の諸問題の背景に、現代社会のさまざまな構造的特質があることを指摘する。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを用意する。	
	参考文献	適時紹介する。	
評価方法	<p>前期および後期の終りに提出を求めるレポートで評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	社会行動の構造
2	社会集団の構造と機能
3	人間、社会、文化の相互関係
4	家族の構造と機能
5	家族制度・核家族化
6	社会の産業化
7	職業社会・雇用社会
8	官僚制化
9	大衆社会
10	社会の階層化
11	日本人の「中」意識の背景
12	前期講義の補足
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	都市化
2	都市問題
3	新しいコミュニティ
4	学歴社会の性格
5	日本の近代化と学歴尊重
6	社会の情報化
7	社会の福祉化——生活の質の重視
8	日本人の生活時間の使い方
9	社会の高齢化
10	高齢社会に対する日本人の意識
11	高齢化社会への対応
12	後期講義の補足
備考	

科目名	哲学概説	担当者名	河 口 伸
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。</p>		
講義概要	<p>西欧思想を歴史的に辿ることが、本講義の概要であるが、そこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りとである。哲学を、ギリシア起源の「学」として捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>「精神史としての哲学史」 角田幸彦編 東信堂</p>	
	参考文献	<p>講義の際に随時指示する。</p>	
評価方法	<p>履修者の数によって変更はあり得るが、基本的には次の通り。前後期の定期試験、不定期のレポート提出、出席点を総合的に評価する。出欠は毎回とる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義に出席しているだけでは、単位修得は不可能である。ノートをとるだけでなく、自ら考えることが必要である。</p>		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	哲学とは何か(1)
2	哲学とは何か(2)
3	ソクラテス以前
4	ソクラテス
5	プラトン
6	アリストテレス
7	スコラ哲学
8	ルネサンスと宗教改革
9	科学革命
10	合理論と経験論
11	啓蒙主義
12	社会契約説
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	カント
2	ドイツ観念論
3	キルケゴール
4	ニーチェ
5	マルクス
6	フッサール・ハイデッガー・ヤスパーズ(1)
7	フッサール・ハイデッガー・ヤスパーズ(2)
8	歴史主義・解釈学
9	ヴィットゲンシュタイン
10	構造主義
11	言語哲学
12	哲学とは何か(3)
備考	

科目名	倫理学概論	担当者名	中島 文夫
-----	-------	------	-------

講義の目標	高等学校で「倫理」を教えるのに必要な基礎的教養を得させることを目標とする。あわせて、中学校において「道徳教育」を実践するための精神的基盤の確立にも資するよう配慮する。	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理学とはどういう学問であるか。</li> <li>2. 学問の全体系の中でどういう位置を占めるか。</li> <li>3. 主要諸概念——この中で、思想史上重要な思想家の学説にも触れることになる。</li> <li>4. 現代における倫理的諸問題。</li> </ol>	
使用教材	テキスト	使用しない。ただし、レジメのプリントを配布する。
	参考文献	必要に応じて随時指示する。
評価方法	未定。(履修者数が確定した後に決める。) 出欠は毎回点検し、評価の一要素とする。	
受講者に対する要望など	欠席・遅刻を当然の権利と考えないこと。	



前期

週	主 要 テ ー マ
1	(4/15) 倫理学とは何か
2	(4/22) 人間存在の個別的原理と普遍的原理
3	(4/29) 休日
4	(5/6) 休日
5	(5/13) 主体(1)
6	(5/20) 主体(2)
7	(5/27) 主体(3)
8	(6/3) 共同体(1)
9	(6/10) 共同体(2)
10	(6/17) 規範(1)
11	(6/24) 規範(2)
12	(7/1) 規範(3)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	(9/30) 価値(1)
2	(10/7) 価値(2)
3	(10/14) 価値(3)
4	(10/21) 道德意識(1)
5	(10/28) 道德意識(2)
6	(11/11) 徳と義務
7	(11/18) 行為
8	(11/25) 自由(1)
9	(12/2) 自由(2)
10	(12/9) 愛
11	(12/16) 生と死
12	(1/13) 現代社会の倫理的諸問題
備考	

科目名	宗教学概論	担当者名	鈴木康治
-----	-------	------	------

講義の目標	宗教とは何かから始めて、宗教に関わる諸知識を整理し、東西の宗教の比較に関わる。		
講義概要	講義予定を参考のこと。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	一応、岸本英夫『宗教学』（大明堂）を参照してみるが、必ずしもそれによるものではない。	
評価方法	年一回の、ノート持ちこみのテストによる。受講者数によっては変更もありうる。		
受講者に対する要望など	特にない。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要の説明
2	宗教とは何か 1.
3	同上 2.
4	宗教学の諸問題 1.
5	同上 2.
6	日本の宗教事情 1.
7	同上 2.
8	年中行事 1.
9	同上 2.
10	通過儀礼の諸問題 1.
11	同上 2.
12	同上 3.
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期概要のまとめ
2	祭りの事例 1.
3	同上 2.
4	同上 3.
5	祭りと現代 1.
6	同上 2.
7	宗教集団の問題 1.
8	同上 2.
9	タブーと戒律 1.
10	修行 1.
11	同上 2.
12	宗教の規定
備考	

科目名	図書館通論（前）	担当者名	小田光宏
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>司書課程諸科目の内容を体系的に理解できるように、図書館その他の情報サービス機関についての基本的な知識を習得することを目標とします。また、図書館情報学の現状を認識するとともに、その学習方法と研究方法の基礎について理解することを目指します。</p>	
講義概要	<p>この授業は、図書館情報学の入門にあたる役割を果たします。まず、現代社会における図書館その他の情報サービスの意義を検討します。つづいて、図書館の種類ごとに、その機能と特徴を学びます。そのうえで、図書館行政ならびに図書館理念について検討します。</p>	
使用教材	テキスト	使用しません。
	参考文献	ほぼ毎回参考文献リストを配布します。
評価方法	<p>2回の小レポートと試験によって評価します。第一小レポートは、講義予定の「いろいろな図書館」に関連して、第二小レポートは「図書館と社会」に関連して設定します。評価の割合は、小レポートを各20%、試験を60%とします。</p>	
受講者に対する要望など	<p>基礎知識を扱う授業は講義形式であるのが通例ですが、本年度はできる限り討議形式を取り入れる予定です。したがって、予習を中心とした授業への取り組みを期待します。なお、希望者に対して、図書館見学を夏休みに実施します。</p>	

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業予定や評価方法について説明します。また、図書館と自分との関係について意見を求めながら、学習のイントロダクションをスタートします。
2	図書館のはたらき：学習社会、高度情報社会における図書館その他の情報サービス機関の役割を検討します。
3	いろいろな図書館(1)：国立図書館の制度と機能を検討します。ビデオ教材を使って国立国会図書館に関する理解を深めます。
4	いろいろな図書館(2)：公共図書館の制度と機能を検討します。
5	いろいろな図書館(3)：大学図書館ならびに学校図書館の制度と機能を検討します。
6	いろいろな図書館(4)：専門図書館ならびに特殊図書館の制度と機能を検討します。
7	図書館と社会(1)：「図書館法」を中心に、図書館の法的環境について解説します。
8	図書館と社会(2)：図書館員の専門職制度について検討します。
9	図書館と社会(3)：「図書館の自由に関する宣言」について検討し、問題となった諸事例を紹介します。
10	図書館と社会(4)：図書館ネットワークならびに電子（デジタル）図書館構想について検討します。
11	図書館情報学の領域と展開：図書館情報学の学習・研究ツールを指示するとともに、現在の研究動向を紹介します。
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	図書館資料論（後）	担当者名	根本 彰
-----	-----------	------	------

講義の目標	この講義のテーマは、コレクション形成（collection development）である。これは、図書館を構成する主たる要素の一つである、資料コレクションをどうつくっていくかを論ずるものである。受講者は、講義によって各種の資料の特性を知るとともに、図書館においてそれらをどのように評価し、収集しているかについての基礎的な知識を得ることができる。		
講義概要	講義では、まず図書館の役割とそのなかでコレクションがどのように位置づけられているか講ずる。次に、種々の種類の資料の特性を述べる。さらに、公共図書館と大学図書館の2つのタイプの図書館において、資料収集がどのような考え方に基づいて実施されているかを論ずる。最後に、一度収集された資料の管理の問題を、不要資料選択、資料保存といった問題を中心に述べる。		
使用教材	テキスト	使用せず、必要に応じてプリントを配布	
	参考文献	三浦逸雄・根本彰『コレクションの形成と管理』雄山閣 1993	
評価方法	学期末テストによる		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。講義の目標、進め方、評価方法、など
2	図書館の館種とコレクション形成の課題
3	資料の種類、図書館資料の意義
4	出版流通
5	マイクロ資料、音声・画像資料、電子資料
6	その他の図書館資料（ファイル資料、地域資料、官公庁資料、点字資料）
7	公共図書館における資料選択論
8	資料収集方針
9	図書館の自由
10	大学図書館における資料収集
11	不要資料選択と資料保存
12	著作権と資料提供サービス
備考	

科目名	参考調査論	担当者名	小田光宏
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>図書館に寄せられる利用者からの情報ニーズは、質問の形態をとることが一般的であり、その質問はレファレンス質問とよばれます。この授業では、レファレンス質問の的確な処理ができるよう、関連する知識と技術を習得することを主要な目標とします。また、前提となるレファレンス・サービスの原理を理解することも目標になります。</p>		
講義概要	<p>図書館の情報提供サービスの中心に位置付けられるレファレンス・サービスの概要を学ぶとともに、さまざまな情報源について精通することを目指します。授業の多くは、2週分を1ユニットとするまとまりからなり、各ユニットは講義と実習を組み合わせて展開します。実習では、図書館における情報や文献の探索課題を設定し、その技術に習熟できるよう指導します。</p>		
使用教材	テキスト	長澤雅男『情報と文献の探索 第3版』丸善 1994	
	参考文献	適宜指示します。	
評価方法	<p>定期試験を実施します。また、実習課題の口頭での報告を求めます。定期試験は前期・後期それぞれ30%、課題の報告は40%の割合とし、総合して評価します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>各ユニットには必ず実習形式の授業を行いますので、積極的な参加を期待します。</p>		



前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：講義予定や評価方法について説明します。また、ビデオ教材に基づいて、レファレンス・サービスの概要を検討します。
2	ユニットⅠ-A：レファレンス・サービスの構造について解説します。また、探索実習Ⅰ（よみ）に用いる情報源を検討します。
3	ユニットⅠ-B：探索実習Ⅰの報告に基づき、検討を加えます。
4	ユニットⅡ-A：レファレンス・プロセスについて解説します。また、探索実習Ⅱ（ことば）に用いる情報源を検討します。
5	ユニットⅡ-B：探索実習Ⅱの報告に基づき、検討を加えます。
6	ユニットⅢ-A：レファレンス・ブックの評価項目について解説します。また、探索実習Ⅲ（ことがら）に用いる情報源を検討します。
7	ユニットⅢ-B：探索実習Ⅲの報告に基づき、検討を加えます。
8	ユニットⅣ-A：文献の種類と性質について解説します。また、探索実習Ⅳ（図書-1）に用いる情報源を検討します。
9	ユニットⅣ-B：探索実習Ⅳの報告に基づき、検討を加えます。
10	ユニットⅤ-A：検索語の選定と検索手段について解説します。また、探索実習Ⅴ（図書-2）に用いる情報源を検討します。
11	ユニットⅤ-B：探索実習Ⅴの報告に基づき、検討を加えます。
12	前期のまとめを行います。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	ユニットⅥ-A：逐次刊行物の性質と、その流通について解説します。また、探索実習Ⅵ（新聞・雑誌-1）に用いる情報源を検討します。
2	ユニットⅥ-B：探索実習Ⅵの報告に基づき、検討を加えます。
3	ユニットⅦ-A：主題の分析について解説します。また、探索実習Ⅶ（新聞・雑誌-2）に用いる情報源を検討します。
4	ユニットⅦ-B：探索実習Ⅶの報告に基づき、検討を加えます。
5	ユニットⅧ-A：カレントな情報について検討します。また、探索実習Ⅷ（カレントな情報）に用いる情報源を検討します。
6	ユニットⅧ-B：探索実習Ⅷの報告に基づき、検討を加えます。
7	ユニットⅨ-A：地理情報について検討します。また、探索実習Ⅸ（地理情報）に用いる情報源を検討します。
8	ユニットⅨ-B：探索実習Ⅸの報告に基づき、検討を加えます。
9	ユニットⅩ-A：人物情報について検討します。また、探索実習Ⅹ（人物情報）に用いる情報源を検討します。
10	ユニットⅩ-B：探索実習Ⅹの報告に基づき、検討を加えます。
11	その他の情報：ここまでに取り上げて来なかった情報について検討します。
12	後期のまとめを行います。
備考	

科目名	資料目録法	担当者名	三井幸子
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>図書館における資料の組織化について、オンライン目録作業を視野に据えた基本的知識や考え方を学ぶことを目標とする。併せて演習を通じて、目録作成の基本的手法を習得する。</p>		
講義概要	<p>図書館における目録作成について、まず目録と目録規則の現在までの経緯を概説する。次に、和書・洋書について書誌記述の方法を説明し、これをふまえて目録作業の演習を行う。さらに、書誌ユーティリティなど目録業務をとりまく仕組みや、利用者の視点も交えたオンライン目録の検討を行う。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	授業時に紹介する。	
評価方法	<p>評価は前後期各1回のレポートと授業への参加度によって決定する。</p>		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 授業方針の説明 参考文献の紹介など
2	資料目録とは (図書館業務における資料組織および目録作業について) 目録とは 用語解説
3	目録の進化(1) 媒体の進化と目録形態の進化 (冊子体目録～オンライン目録)
4	目録の進化(2) MARC の概要
5	図書館の書誌的構成と書誌記述に必要な分析
6	目録規則の進化と概要 (日本目録規則、英米目録規則)
7	書誌記述の方法(1) 日本目録規則 1987 年版改訂版……記述総論・書誌階層
8	書誌記述の方法(2) 日本目録規則 1987 年版改訂版……タイトルと責任表示に関する事項 (I)
9	書誌記述の方法(3) 日本目録規則 1987 年版改訂版……タイトルと責任表示に関する事項 (II)
10	書誌記述の方法(4) 日本目録規則 1987 年版改訂版……版・出版・形態・シリーズに関する事項
11	書誌記述の方法(5) 日本目録規則 1987 年版改訂版……まとめ
12	前期授業のまとめ 質疑応答
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	目録演習(1)
2	目録演習(2)
3	目録演習(3)
4	目録演習(4)
5	アクセスポイント (標目・排列・典拠コントロール)
6	目録業務の実際……NACSIS-CAT による目録業務の仕組みや使用ツールの紹介(1) NACSIS-CAT の概要
7	目録業務の実際……NACSIS-CAT による目録業務の仕組みや使用ツールの紹介(2) 和書・洋書・典拠ファイル作成の実際
8	書誌ユーティリティ(1) 書誌ユーティリティの機能 共同目録作業 学術情報センターの目録所在サービス
9	書誌ユーティリティ(2) 海外の書誌ユーティリティ (OCLC,UTLAS,WLN,RLIN)
10	オンライン目録の現状と課題(1) 様々なオンライン目録の紹介
11	オンライン目録の現状と課題(2) オンライン目録の課題と展望
12	授業のまとめ 図書館における目録作成者の要件について
備考	

科目名	資料分類法	担当者名	緑川信之
-----	-------	------	------

講義の目標	分類の基本的な考え方を理解するとともに、具体的な文献分類の体系、使用法について学ぶ。	
講義概要	前半は分類の一般理論、すなわち、分類の基本的概念、区分・体系化・位置づけ・検索の各段階、そして自動分類について説明する。また、日本十進分類法を用いて実際の図書分類の作業を行い、分類理論の理解を深める。後半は主要な文献分類法について説明する。最後に件名標目表についてふれる。	
使用教材	テキスト	後期に予定しています（現在執筆中）。
	参考文献	
評価方法	期末試験による。ただし、授業中に小テストまたはレポートを課すこともある。	
受講者に対する要望など		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	概説。分類の定義、意義、種類、段階について。
2	区分。区分の原則（相互排他性、包括性）について。
3	体系化(1)。構造、配列について。
4	体系化(2)。表示、記号について。
5	体系化(3)。索引について。
6	位置づけ。分類体系上への位置づけについて。
7	検索。分類体系からの取り出しについて。
8	自動分類(1)。自動分類のための統計手法について。
9	自動分類(2)。自動分類の具体例について。
10	日本十進分類法(1)。日本十進分類法を用いて演習を行う。
11	日本十進分類法(2)。同上。
12	日本十進分類法(3)。同上。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	デューイ十進分類法(1)。構造、配列について。
2	デューイ十進分類法(2)。表示について。
3	デューイ十進分類法(3)。記号、索引、歴史について。
4	アメリカ議会図書館分類法(1)。構造、配列、表示について。
5	アメリカ議会図書館分類法(2)。記号、索引、歴史について。
6	コロン分類法(1)。構造、配列、表示について。
7	コロン分類法(2)。記号、索引、歴史について。
8	国際十進分類法。構造、配列、表示について。
9	日本十進分類法(4)。体系について。
10	文献分類法の特徴。
11	主題分析。主題分析の基本的考え方、件名標目表、シソーラスについて。
12	基本件名標目表。使い方について。
備考	

科目名	図書館活動論（前）	担当者名	柳 与志夫
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>図書館はサービスを目的としたひとつの組織であり、その活動には大きく、①利用者サービス、②それを支援するための収集・書誌コントロールなどのテクニカル・サービス、③サービス全体を維持・発展させるための経営管理機能、の三つの面がある。今回はこのうち①③に焦点をあて、経営組織としての図書館の特徴を理解する。</p>		
講義概要	<p>組織経営、特に図書館のような非営利組織の経営の特性を概観した後、前半は利用者サービス、後半は経営管理機能についてふれる。別の言い方をすれば、サービスを受ける側と提供する側の両面から図書館の経営機能にアプローチする。教科書的概説は避け、論争点を取りあげることによって諸テーマの内容とその意味を理解すること、関係する行政学、経営学、公共経済学などにも関心を払うこと、に留意する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>A：長澤雅男・小田光宏「利用者サービスと利用者教育」雄山閣 B：高山正也編「図書館・情報センターの経営」勁草書房</p>	
	参考文献	<p>授業において適宜紹介。</p>	
評価方法	<p>試験とレポート各1回の予定。</p>		
受講者に対する要望など	<p>一方的な講義ではなく、双方向のコミュニケーションを図りたいので、受講者への授業中の質問等にも積極的に答えてほしい。</p>		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業方針、スケジュール、テキストの説明。「図書館とは何か」についての意見交換。
2	非営利組織の経営：経営と行政、企業と非営利組織の関係。経営の諸要素と図書館の特殊性。
3	資料提供サービス：閲覧 vs. 貸出。
4	情報提供サービス：無料 vs. 有料。
5	情報資源とサービス：アクセス vs. 所蔵、時間と空間（場所）。
6	対象者別サービス：児童、高齢者、障害者、外国人、入院患者、囚人など。
7	新しいサービスを考える：レポートを基に討論形式で行う。
8	利用者教育と利用者ガイダンス：経営機能か、サービスか。
9	PR：その意義と方法、図書館員の役割と組織のあり方。
10	経営資源と経営形態：資源配置としての職員・資料・資金。ガバナンスと法規。
11	経営計画とマーケティング：その意義と方法。
12	情報システムとR&D：図書館経営上の意義。最後に「図書館とは何か」について再度意見交換。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	青少年の読書と資料（後）	担当者名	宮部 頼子
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>児童青少年の読書の問題を、青少年の発達段階と資料の関係、資料の種類と特性、資料の選択と評価、地域社会との関わりなど様々な側面から検討し、理解を深めることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>児童青少年の読書の問題を、青少年の発達段階と資料の関係、資料の種類と特性、資料の選択と評価、地域社会との関わりなど様々な側面から検討していく。近隣の図書館の児童室を見学し、児童図書館員によるフロアワーク（お話し、読み聞かせ等）を観賞し、授業においてもブックトークの実習を行う。</p> <p>また、表現の自由と差別問題、図書館と知的自由の問題などを様々な角度から具体例をもとに検討していく。</p>		
使用教材	テキスト	なし。（随時、配布資料使用）	
	参考文献	授業時に紹介。	
評価方法	レポート、出席および授業参加度を総合的に判断して評価を行う。		
受講者に対する要望など			



前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション授業：授業方針の説明、評価方法の説明などを行う。
2	児童青少年と読書に関して、各自のこれまでの読書習慣および図書館との関わりをふり返りながら、青少年サービスとは何かを考える。配布資料参照。
3	ヤングアダルトサービスに関する調査報告書をもとに、検討を行う。児童青少年の読書興味について、その発達段階を年齢別資料の特性を参考にしながら検討する。配布資料参照。
4	児童青少年資料の種類と特性について考える。ヤングアダルトサービスとマンガの扱いに関しても検討を加える。各自の最寄公共図書館におけるマンガの扱いについて調査を行い、レポートにまとめて提出する。
5	児童青少年の読書と地域社会について、児童図書館の活動に焦点を当てて考える。配布資料参照。
6	近隣の公共図書館児童室を見学し、児童図書館員によるお話、読み聞かせ等を観賞する。見学レポートをまとめて提出する。
7	児童青少年の読書活動とその指導に関して、グループ作業によるブックトークを実際に行って学んでみる。ブックトークに関するビデオ観賞および配布資料により理解を深める。
8	各グループ毎に、ブックトークを行う対象年齢およびテーマを決定し、全体構成、ブックリスト作成などの準備作業を行う。
9	ブックトークのグループ発表（前半グループ）を行う、相互評価および全体討議を行う。
10	ブックトークの発表（後半グループ）を行う。相互評価および全体討議を行う。
11	児童青少年の読書と資料の評価の例として、「ちびくろサンボ」をとり上げる。各版の読み比べを行い、グループディスカッションを通して、様々な角度から検討を加える。配布資料参照。各自の考えをレポートにまとめる。
12	全体のまとめを行う。 ビデオで米国の公共図書館における児童サービスの模様を観賞し、理解を深める。
備考	

科目名	図書及び図書館史（後）	担当者名	根本 彰
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>現在、急速にパソコンが各家庭に普及するとともに、インターネットが話題になっている。うかうかしていると、現代社会がマルチメディアのデジタル情報社会として、すべてのメディアや通信手段がそれに飲み込まれてしまいかねない。図書館の分野においても、デジタル技術を駆使した電子図書館の実験的プロジェクトが様々なところで運用されている。本講義はこのような新しいメディアによる図書館サービス構想の沿革をたどることで、逆に従来のメディアである図書および図書館の歴史的意義を明らかにしようとするものである。</p>		
講義概要	<p>本講義は図書および図書館の通史を講ずるのではなく、近代におけるメディアやテクノロジーの変遷とそれに対応した近代図書館という制度の社会的意義を中心に論ずるものである。順序としては、まず、最近のインターネットやCD-ROMといった新しいメディアの特性と電子図書館プロジェクトの概要を伝統的なメディアや図書館との対比において述べる。その次に、電子図書館の構想を20世紀初頭にまでさかのぼって顧みる。続いて、近代の図書館サービスがどのような社会的特性をもっているのかを、とくに図書館建築とレファレンスサービスを例にとって概観しておく。最後に、現代の図書館運営を社会学や政治学の方法で分析する。</p>		
使用教材	テキスト	W・バーゾール『電子図書館の神話』勁草書房 1996	
	参考文献	講義のときに必要に応じて紹介	
評価方法	学期末試験		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。講義の進め方。
2	伝統的メディアと新しいメディアの出現
3	伝統的図書館と電子図書館の構想
4	図書館の神話とは何か——大都市中央館論争を中心に
5	電子図書館神話の出現——マイクロ写真術から図書館の機械化まで
6	情報社会論と電子図書館——マハルプ、ダニエル・ベル、マクルーハン、トフラー
7	図書館のシンボリズムと身体性——感覚的な図書館像、図書館建築
8	セラピストとしての図書館員——人間志向的サービス専門職について
9	レファレンスサービスの2類型——情報提供 vs 教育
10	官僚主義的制度としての図書館
11	図書館の政治学——個人主義、コミュニティ、自由主義
12	まとめ——図書および図書館の歴史的意義
備考	

科目名	図書館の施設と設備（前）	担当者名	宮部 頼子
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>図書館の施設、図書館建築の構成と計画、図書館システムと施設、家具備品、サイン計画などに関する基礎的な理解を深めることをねらいとしている。</p>		
講義概要	<p>図書館施設、図書館建築の構成と計画、図書館システムと施設、家具、備品、サイン計画などに関する基礎的な理解を深めることを主なねらいとしており、身近な図書館建築、施設・設備を実際に見学・調査し、その評価も試みる。日本図書館協会建築賞受賞作品なども取り上げ考察を加える。</p> <p>授業はディスカッションを多く採り入れ、全員の積極的な参加を基本に展開される。</p>		
使用教材	テキスト	<p>栗原嘉一郎編著「図書館の施設と設備」（現代図書館学講座（3） 東京書籍</p>	
	参考文献	<p>授業時に紹介。</p>	
評価方法	<p>レポート、出席および授業参加度を総合的に判断して評価を行う。</p>		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：教科書の紹介と活用方法、授業方針の説明、評価方法の説明などを行う。
2	図書館の施設とは何かを図書館ネットワークと施設計画に焦点を当てながら考える。教科書第1章～2章、配布資料参照。
3	公共図書館の地域計画の具体例をとり上げ、図書館システムと施設について考える。教科書第1章～2章、配布資料参照。
4	近隣の公共図書館を見学し、施設、設備の観点から検討を加える。(レポート提出)
5	図書館建築の構成と計画に関して、全体計画と利用者動線について考える。教科書第3章、配布資料参照。
6	図書館建築の構成と計画に関して、障害者対策および点字図書館をとり上げて検討する。教科書第3章、配布資料参照。
7	図書館の家具、備品、サイン計画に関して、カウンターと書架をとり上げる。身近な図書館を例にして検討を加えてみる。教科書第4章、配布資料参照。
8	前回のカウンターと書架に関してディスカッションを行い、相互に意見交換を行った上、全体討議を行う。配布資料参照。
9	図書館の建設に関して、企画から建設までのプロセスを検討する。教科書第5章、配布資料参照。
10	複合施設を取り上げて検討を加える。その長所、短所を含め様々な観点から考察する。教科書第5章、配布資料参照。
11	図書館建設の事例研究として、最近の日本図書館協会建築賞受賞作品をとり上げ、ディスカッションも混じえて評価分析を加える。教科書第7章、配布資料参照。
12	全体のまとめとして、各自が最寄公共図書館建築の事例研究を行い、レポートにまとめて提出する。ビデオで米国公衆図書館の模様を観賞し、理解を深める。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	資料整理法特論（後）	担当者名	小田光宏
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>情報と文献のコントロールの理論と技術を学ぶことを目標としますが、とりわけネットワーク環境下における諸問題に焦点を合わせます。また、情報ネットワークとの関係を考慮しながら、オンライン検索や広範な利用が可能になったインターネットの技能を理解します。</p>		
講義概要	<p>授業は「情報と文献のコントロール」と「オンライン検索の実際」の二部から構成されます。「オンライン検索の実際」では、NACISIS-IRとDIALOGの検索、ならびにインターネットを用いた情報検索の広がりについて、実習を中心に学びます。また、「情報と文献のコントロール」では、標準化と規格、メディアと書誌ユーティリティの問題を検討します。</p>		
使用教材	テキスト	使用しません。	
	参考文献		
評価方法	<p>試験を実施します。また、毎回の授業の積み重ねによってはじめて理解が可能な技術を扱うので、平常点（遅刻をしない出席と授業への参加）を重視します。具体的には、試験を60%、平常点を40%の割合とし、総合して評価します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業ではきわめて実際的な知識と技術を扱います。したがって、出席して作業に参加することが重要です。なんらかの事情で欠席した場合には、次回までに補っておくことが不可欠です。</p>		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	書誌コントロール(1): 書誌コントロールの基本概念について検討するとともに、発展の経緯について解説します。また、ネットワークについても論じます。
2	書誌コントロール(2): 書誌ユーティリティの事例を紹介しながら、標準化と規格の問題について検討します。また、オンライン検索との関係を説明します。
3	オンライン検索(1): デモンストレーション形式で、データベースの検索技術について検討します。
4	オンライン検索(2): デモンストレーション形式で、データベースの検索技術について検討します。
5	オンライン検索(3): デモンストレーション形式で、データベースの検索技術について検討します。
6	オンライン検索(4): デモンストレーション形式で、データベースの検索技術について検討します。
7	情報検索の評価(1): 検索結果の評価について検討します。
8	情報検索の評価(2): 検索システムの評価について検討します。
9	インターネット(1): インターネットを用いた情報検索の可能性について、実習形式で検討します。
10	インターネット(2): インターネットを用いた情報検索の可能性について、実習形式で検討します。
11	インターネット(3): インターネットを用いた情報検索の可能性について、実習形式で検討します。
12	インターネット(4): インターネットを用いた情報検索の可能性について、実習形式で検討します。
備考	

科目名	情報管理（前）	担当者名	小田光宏
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータを用いた情報の検索に関する基礎的な知識と理論、ならびに、こうした技術が発展した社会的な背景について理解することを目標とします。とりわけ、近年ユーザー・フレンドリーな仕組とともに普及しつつあるCD-ROM検索に焦点を合わせ、検索デモンストレーションを行なって、その技術の習熟につとめます。</p>		
講義概要	<p>授業は大きく「情報検索の基礎」と「CD-ROM検索の実際」とに分けて実施します。「情報検索の基礎」では、現代社会と情報検索の可能性、データベース、索引言語、検索式といった諸問題を扱います。「CD-ROM検索の実際」では、いくつかのCD-ROMソフトのデモンストレーションを実施し、実習を交えて技術に習熟します。</p>		
使用教材	テキスト	使用しません。	
	参考文献		
評価方法	<p>試験を実施します。また、毎回の授業の積み重ねによってはじめて理解が可能な技術を扱うので、平常点（遅刻しない出席と授業への参加）を重視します。具体的には、試験を60%、平常点を40%の割合とし、総合して評価します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業ではきわめて実際的な知識と技術を扱います。したがって、出席して作業に参加することが重要です。なんらかの事情で欠席した場合には、次回までに補っておくことが不可欠です。</p>		



前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：講義予定、授業方法、評価基準などの注意事項について説明します。
2	情報検索の基本概念：情報検索の定義と種類、歴史と現状について解説します。また、情報検索システムの構成要素について説明します。
3	データベース(1)：データベースの定義と種類、流通と組織について、事例を紹介しながら解説します。
4	データベース(2)：データベースの構造について、コンピュータ化されていない情報源の構造と比較しながら、理解を深めます。
5	情報検索理論(1)：索引言語に関して、事前結合方式と事後結合方式、自然語と統制語、シソーラスの役割について説明します。
6	情報検索理論(2)：検索式に関して、各種の演算子の特徴と使い分けについて説明します。また、部分文字列一致に基づく検索式も検討します。
7	CD-ROM検索(1)：CD-ROMを用いた検索実習を行います。
8	CD-ROM検索(2)：CD-ROMを用いた検索実習を行います。
9	CD-ROM検索(3)：CD-ROMを用いた検索実習を行います。
10	CD-ROM検索(4)：CD-ROMを用いた検索実習を行います。
11	CD-ROM検索(5)：CD-ROMを用いた検索実習を行います。
12	情報検索メディア：冊子体情報源、CD-ROM、オンライン検索システムを比較して、それぞれの特徴を明らかにします。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会調査(後)	担当者名	小田光宏
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>図書館経営においては、利用者のニーズを把握することが、まず求められます。また、利用者の意識を探ったり、利用の実態を明らかにすることも重視されます。このために、社会調査の手法を用いた調査が実施されます。この授業では、社会調査を図書館経営の技能のひとつとしてとらえ、その理論と実際に精通することを目標とします。</p>	
講義概要	<p>授業は、講義形式による基礎知識の解説と、演習形式による簡単な面接調査の実施とからなります。前半は、社会調査の概要と実査の留意点について解説します。後半は、面接調査を行い、そのデータの集計ならびに分析を行います。</p>	
使用教材	テキスト	使用しません。
	参考文献	適宜指示します。
評価方法	<p>面接計画を立て、実査を行い、そこで収集したデータの集計と分析結果をレポートとして提出していただきます。これを評価の対象とします。</p>	
受講者に対する要望など	<p>面接調査を実施するために、実務的な知識と技術を扱います。また、毎回段階的に作業を進めます。したがって、きちんと出席できる方のみ受講して下さい。なお、データの集計にはパソコンを用いますので、操作のできる人を歓迎します。</p>	

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：講義予定ならびに評価方法について説明します。また、学習の進め方についてアドバイスいたします。
2	社会調査の概要：社会調査の目的と効果、調査方法の種類と長所短所について解説します。
3	調査計画の立案：調査を実施するための計画作りと作業手順の確定、実査における留意点について検討します。
4	質問紙の作成：有効なデータを収集できる質問紙を作成するために、質問項目の選定、質問文や質問順序への配慮などについて解説します。
5	面接調査演習(1)：作成した面接計画ならびに質問紙を検討します。
6	面接調査演習(2)：作成した面接計画ならびに質問紙を検討します。
7	面接調査演習(3)：実査に基づき問題点を検討します。
8	面接調査演習(4)：実査に基づき問題点を検討します。
9	データの集計：パソコンを用いた標準的なデータ集計の方法を解説します。
10	データの分析：データの基礎的な分析について、手法を解説します。
11	面接調査演習(5)：実査で収集したデータを集計し、分析します。
12	面接調査演習(6)：実査で収集したデータを集計し、分析します。
備考	

科目名	視聴覚教育	担当者名	町田喜義
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>ニューメディア元年と言われた1984年から十年が過ぎた。この間、我々のコミュニケーション状況は大きく変化して来ている。それに伴い教育もまた激動期を迎えている。本コースは、「いま、教育は！」をテーマに、コミュニケーション、教育、そしてメディアとの関わりの中で視聴覚教育の課題を理解すると共に今後の展望を得ることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>視聴覚教育入門講座として、以下のような内容を取り上げる。</p> <p>視聴覚教育とは—歴史的変遷・意味、教育とコミュニケーション、言語偏重主義、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、視聴覚教育研究—特性・処遇・課題相互作用、記号と意味、画像の豊かさ、コンピュータ・リテラシー、ニューメディア、博物館と視聴覚教育（調査）、教材の作成、グループ研究、その他。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリント、ビデオ、その他を使用する。</p>	
	参考文献	<p>ハヤカワ、S. I. (大久保忠利訳)『思考と行動における言語』岩波書店 1956          デール、E. (西本三十二訳)『デールの視聴覚教育』日本放送教育協会 1960          矢田光治編『ハイパーメディア』日刊工業新聞社 1990          NHK生涯教育メディア研究会編『ニューメディアは教育を変えるか』啓学出版 1988          坂元昂『教育工学』日本放送出版協会 1991          大内茂男・高桑康雄・中野照海編『視聴覚教育の理論と研究』日本放送教育協会 1979          野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開 [第二版]』東信堂 1995</p>	
評価方法	<p>出席点：20%          レポート：20%          調査発表：30%          制作発表 30%</p>		
受講者に対する要望など	<p>学務課免許課程係が主催する「OHP技術講習会」への参加を義務づける。          上記内容は受講生数・進度などにより変更の可能性がある。</p>		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：授業計画の説明、参考文献の紹介と利用方法、評価方法の説明、班編成など
2	講義：視聴覚教育とは、(1)その変遷と課題
3	解説：「デールの経験の円錐」抄訳(1)
4	解説：「デールの経験の円錐」抄訳(2)
5	講義：視聴覚教育とは、(2)教育コミュニケーションの視点
6	講義：「コミュニケーション」とは
7	討議：教育とコミュニケーション
8	ゲーム：画像と言語の機能の相違について
9	ゲーム：BBIP
10	講義：視聴覚教育研究の展開—メディアの特性と特性・処遇・課題交互作用
11	調査：視聴覚教育の理論と実際
12	発表：博物館と視聴覚教育
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	講義：授業過程における視聴覚メディアの選択
2	ビデオ：ハイパーメディアについて：1 ハイパーメディアとは 2 メディアで教育が可能か
3	講義：映像リテラシーをめぐる問題
4	講義：言語と非言語をめぐる(1)
5	講義：言語と非言語をめぐる(2)
6	解説：コンピュータ・リテラシーをめぐる
7	講義：コンピュータ・リテラシーの教育内容
8	実践：ニューメディアの教育利用
9	講義：視聴覚メディア開発の論理
10	実践：教材作成・発表(1)
11	実践：教材作成・発表(2)
12	エピローグ：視聴覚教育の理論と実際
備考	

科目名	学校図書館通論（集中授業）	担当者名	宮部 頼子
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>わが国の学校図書館の現状を概観し、その諸活動に関する理解を深めるとともに、そこで見出された問題点を検討し、考えを深めることを目的とする。</p> <p>特に、学校図書館と教科授業との関係に焦点を合わせ、実際に学校図書館の見学も行う。</p>		
講義概要	<p>わが国の学校図書館の現状を概観し、その諸活動に関する理解を深めるとともに、そこから浮かび上がってくる様々な問題点を検討する。学校図書館の設置と活動状況、経費、資料、社会的基盤、学校図書館法、司書教諭、学校司書、メディアセンターとしての学校図書館等について検討する。あわせて、近隣の学校図書館を見学し、より理解を深める。又ビデオ教材をもとにディスカッションを行い、各自の考えを発表する機会を設ける予定である。</p>		
使用教材	テキスト	なし。（随時、配布資料使用）	
	参考文献	授業時に紹介。	
評価方法	見学レポート（2ヶ所）、提出課題、出席および授業への参加度を総合して評価を行う。		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	学校図書館の設置状況、活動状況、経費、資料などの点について、最近の資料を参照しながら検討を行い、学校図書館の現状に関する基礎的理解を深める。
2	学校図書館の社会的基盤について、学校図書館法とその改正問題、社会と学校図書館などに焦点を当てて考える。午後からは、近隣の小学校図書室の見学を行う。
3	学校図書館職員の問題をとりあげ、司書教諭とは何か、学校司書の存在、学校図書館職員の職務などについて考える。午後からは近隣の中学校図書室の見学を行う。
4	見学のまとめを行ったのち、メディアセンターとしての学校図書館をとり上げる。学校図書館に関するビデオを観賞し、それらを比較検討し、評価分析も試みる。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	学校図書館の利用指導（集中授業）	担当者名	宮部 頼子
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>学校教育の課題のひとつである「学び方を学ぶ」に関して、学校図書館におけるその指導方法を習得することを目的とする。</p> <p>各種の事例を比較検討しながら指導案策定も試みる。</p>	
講義概要	<p>学校教育の課題のひとつである「学び方を学ぶ」に関して、学校図書館におけるその指導方法を様々な角度から検討し、習得する。近隣の学校図書館見学およびビデオ教材を通して、現場における様々な問題を理解し、それらを踏まえた上でグループ作業により利用指導計画案策定を試みる。ビデオ観賞をもとに、少人数クラスの利点を生かしたディスカッション形式の授業展開も組み入れる予定である。</p>	
使用教材	テキスト	なし。(随時、配布資料を使用)
	参考文献	授業時に紹介。
評価方法	提出課題、出席および授業への参加度などを総合して評価を行う。	
受講者に対する要望など		



前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	学校図書館の利用指導の基礎的理解のために、利用指導の実施状況、実施内容、読書指導と利用指導の内容などについて配布資料をもとに検討する。
2	利用指導の体系理解のために各種資料を用いて検討する。ビデオ観賞により利用指導の具体例を学び、それらの評価分析も行う。
3	教科授業と利用指導に関して両者の関係を検討する。
4	これ迄に学んだことを基にして、利用指導の実際について各自の考えをまとめる。更にグループ作業により、実際に利用指導計画案の策定を行い、相互評価を行う。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	